

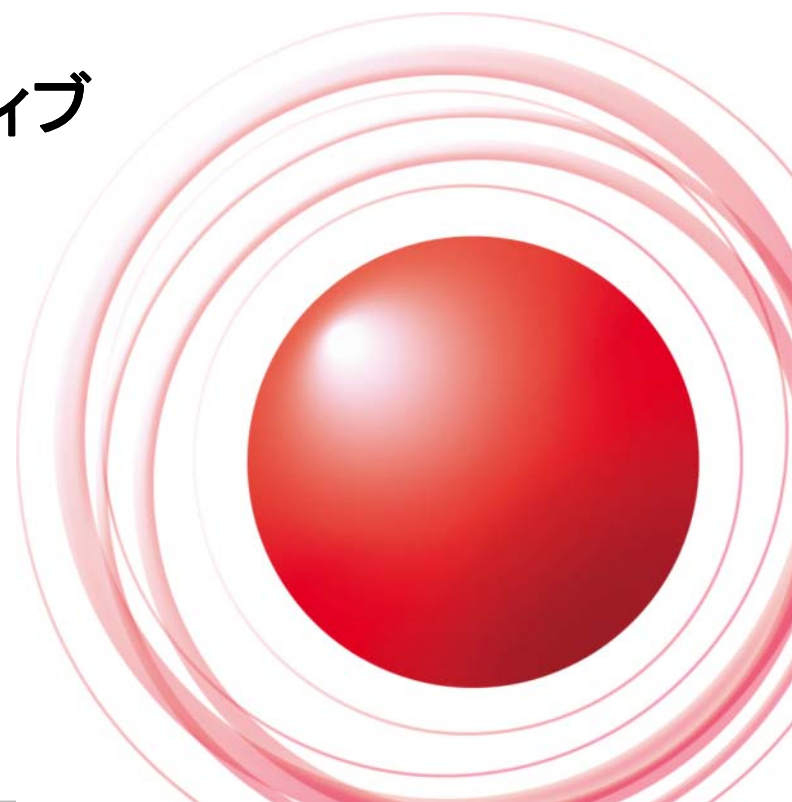


野村證券株式会社 池袋支店 個人投資家様向けIRセミナー

株式会社インターネットイニシアティブ
(東証一部:3774/米国ナスダック:IIJI)

2012年10月10日
常務取締役兼CFO 渡井昭久

Ongoing Innovation



ハイライト

- ◆ 国内トップクラスのIPプロフェッショナル
 - ◆ ISPからトータル・ネットワーク・ソリューション・プロバイダーへと戦略的に事業領域を拡大
-
- ◆ 約6,500社の優良な大中堅企業・官公庁顧客基盤
 - ◆ IJグローバル(旧AT&Tジャパン)子会社化による約1,600社の顧客基盤拡大
-
- ◆ ストック売上の積上げによる継続的な売上・利益成長実績
 - ◆ 成長するアウトソーシング・クラウド市場におけるリーディングカンパニー

details to follow

国内トップクラスのIPプロフェッショナル

◆ 国内ISPの草分け

- ▶ トップレベルのIPエンジニアが集結、拡大
- ▶ 日本で最初にインターネット接続サービスを開始、マーケットを創造

◆ 「インターネット技術」がコア・コンピタンス

- ▶ インターネット事業を「ゼロ」から「自分たちの手で」作り上げた実績
- ▶ 日本で最大級のバックボーンを構築、運営
- ▶ 先進的なサービス・プロダクトを開発・提供し、マーケットをリード

◆ 情報システム部門に対する高いブランド力

- ▶ インターネット接続サービスから培った顧客との長い信頼関係
- ▶ 信頼性が高く、安定したネットワークサービスの提供、運用
- ▶ 高い顧客満足度、充実したサポート体制

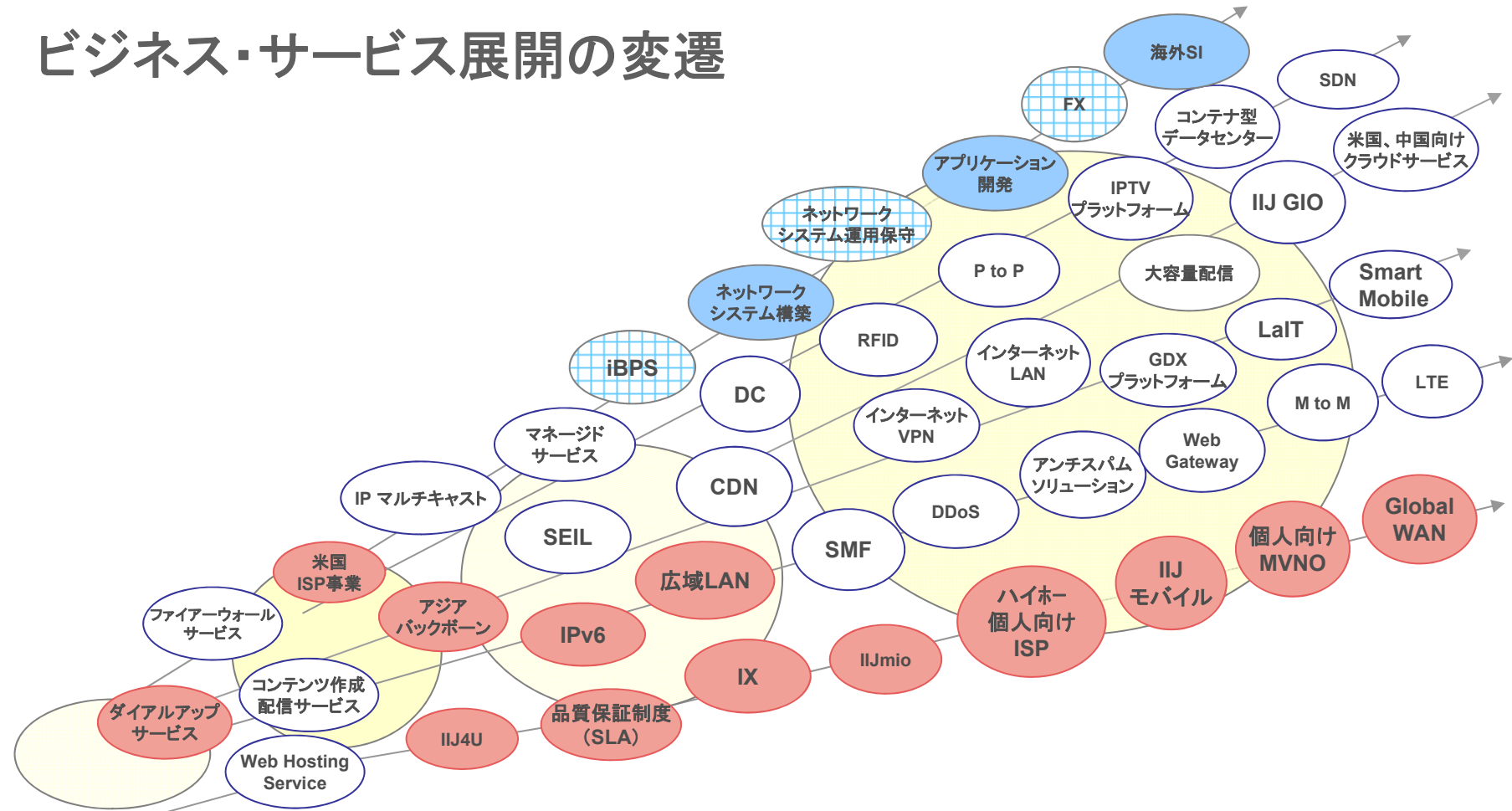
◆ 卓越したIP技術力・研究開発

- ▶ IPv6、モバイルIPv6、クラウド等、次世代の情報基盤技術の研究開発への取り組み
- ▶ 総務省委託研究への共同参画
- ▶ 世界的なセキュリティ活動団体への参加等
 (「FIRST(ファースト)」や「テレコム・アイザック推進会議」)
- ▶ 迷惑メール対策機関「JEAG(ジীগ)」の立上げ

会社概要	
設立	1992年12月
従業員数(連結)	2,078名(2012/6末時点) (約70% エンジニア)
上場証券取引所	米国ナスダック市場(IJJI) 東証1部(3774)
主要株主 (2012/3末時点)	NTT(24.4%)、鈴木幸一(6.3%)、 伊藤忠商事(株)(5.1%)、 NTTコミュニケーションズ(4.9%)

IPネットワーク技術でのイニシアティブ

ビジネス・サービス展開の変遷



IIGグループ

1992



1995



1996



1997



1998



2004



IIG Financial Systems

2006



i-revo

2007



2008



IIG INNOVATION INSTITUTE

2010



IIG Global

2012



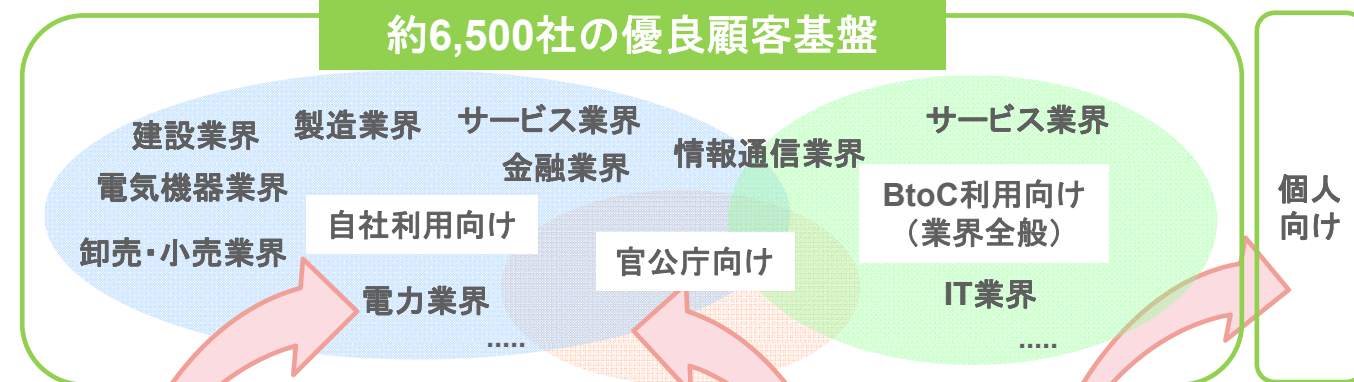
IIG Exlayer



Scratosphere

事業内容

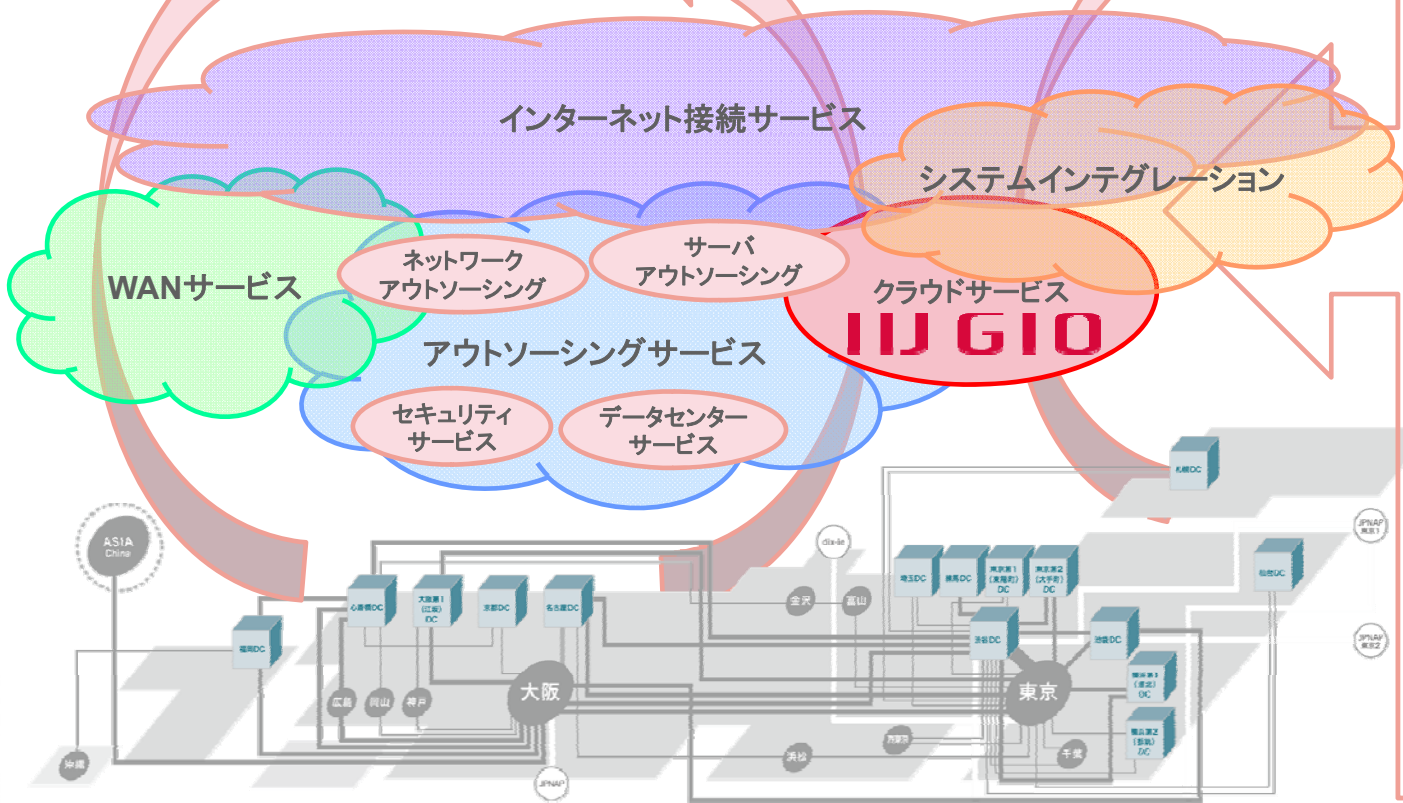
約6,500社の優良顧客基盤



個人向け

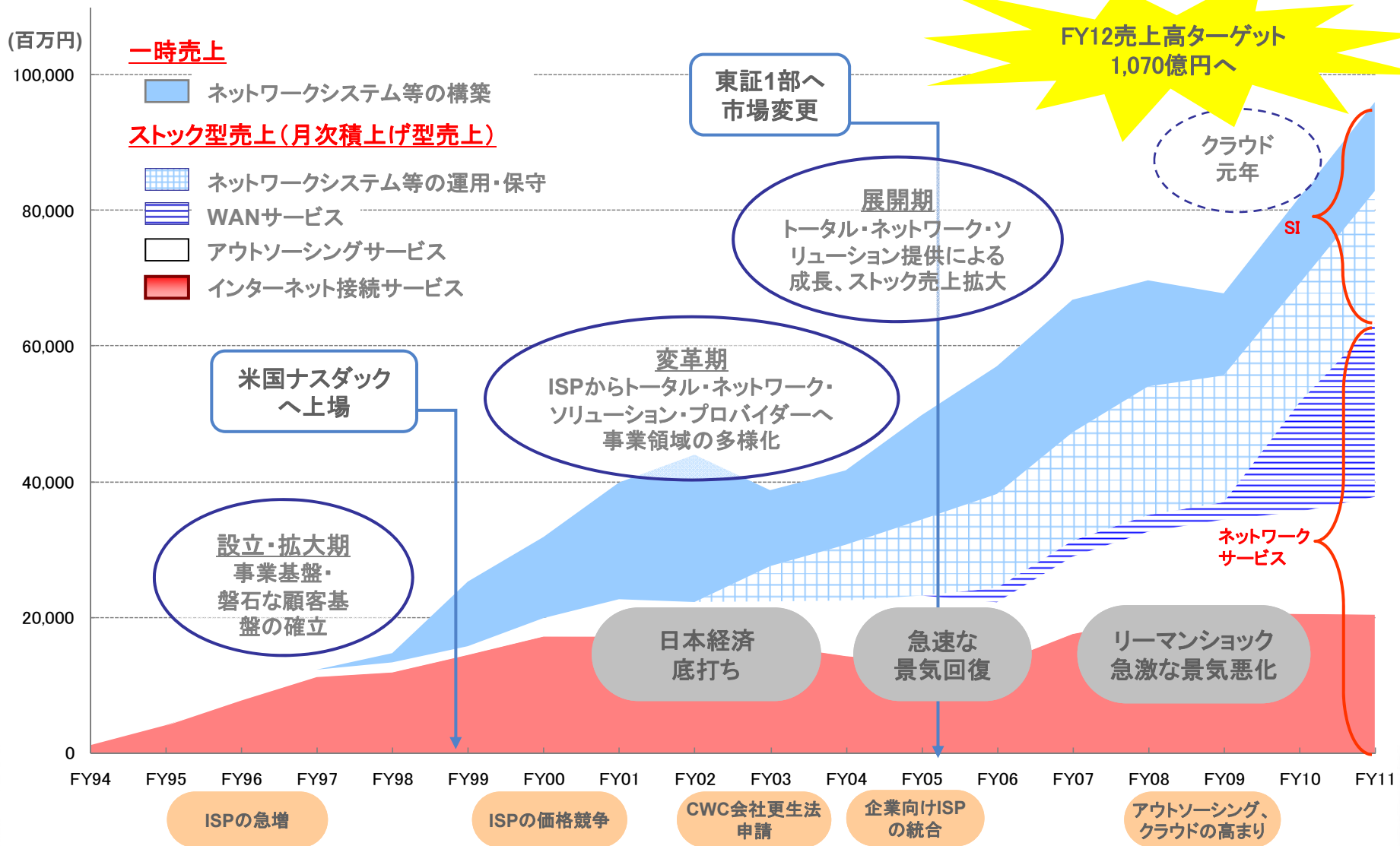
トータル・ネットワーク・ソリューションの提供

- ・高信頼性インターネット接続サービス
- ・BtoC事業者向け超広帯域通信トラフィックの運用
- ・拠点間を結ぶ専用網WANサービス
- ・出先から社内に安心してアクセスできるモバイルサービス
- ・SEILルータの自社開発
- ・データセンターサービス
- ・メールアウトソーシングサービス
- ・ハッキング等から守るセキュリティサービス
- ・災害時用バックアップデータストレージサービス
- ・ネットワークの構築運用
- ・オンライン証券等のECシステムの構築運用
- ・クラウドサービス
- ・FXシステムのASP提供



ビジネスモデルの戦略的転換

➤ ISPからトータル・ネットワーク・ソリューション・プロバイダーへ



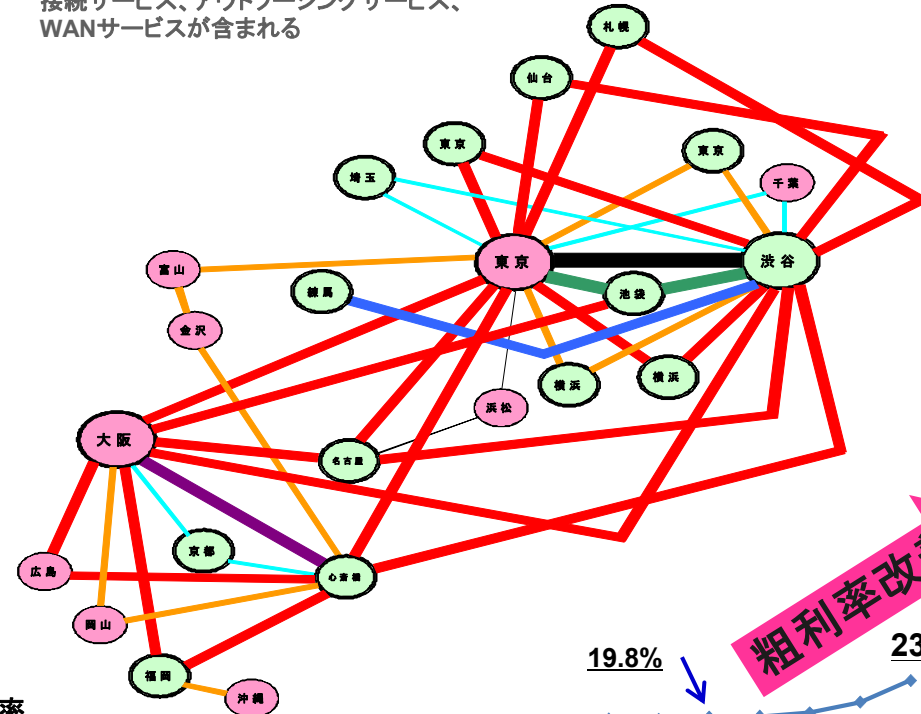
ネットワークサービスのビジネスモデル

売上

- インターネットバックボーン上に多様な売上（法人向け、個人向け、アウトソース）を積上げ
- インターネット接続サービス契約体系：帯域毎
- ストック売上（月額課金）の積上げモデル
- 顧客：法人等の直接ユーザや個人向けISP事業者、CATV等のネットワークオペレータ
- 法人向けISPは淘汰され、新規参入は困難
- 過度なインターネット価格競争はFY2005頃にほぼ収束
- 帯域増加とアウトソーシングサービスの受注積上による売上増加
- インターネットの利用拡大＝トラフィック増加によるスケールメリットビジネス

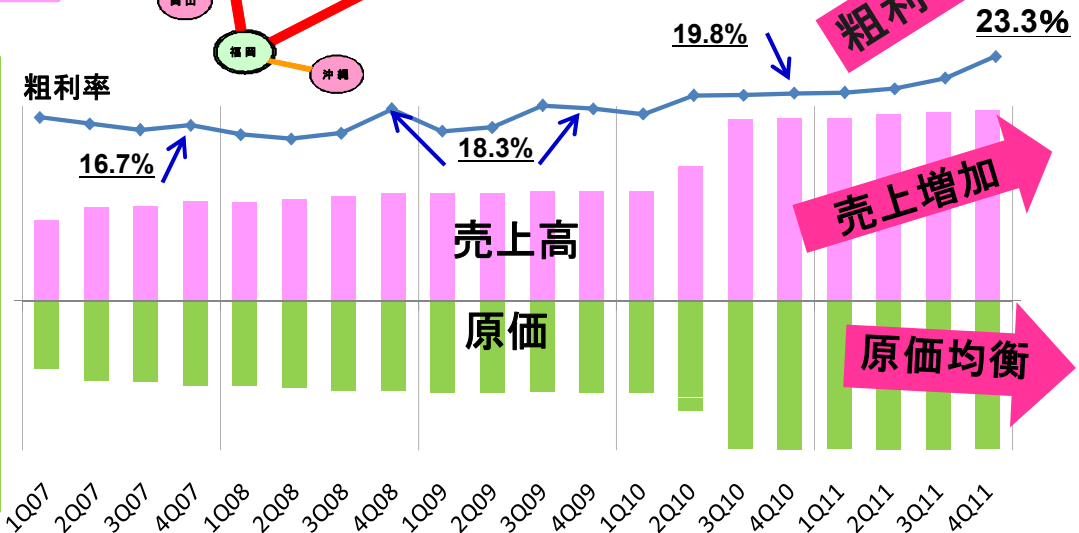
※ ネットワークサービスには、インターネット接続サービス、アウトソーシングサービス、WANサービスが含まれる

IIJ 国内インターネットバックボーン図



原価

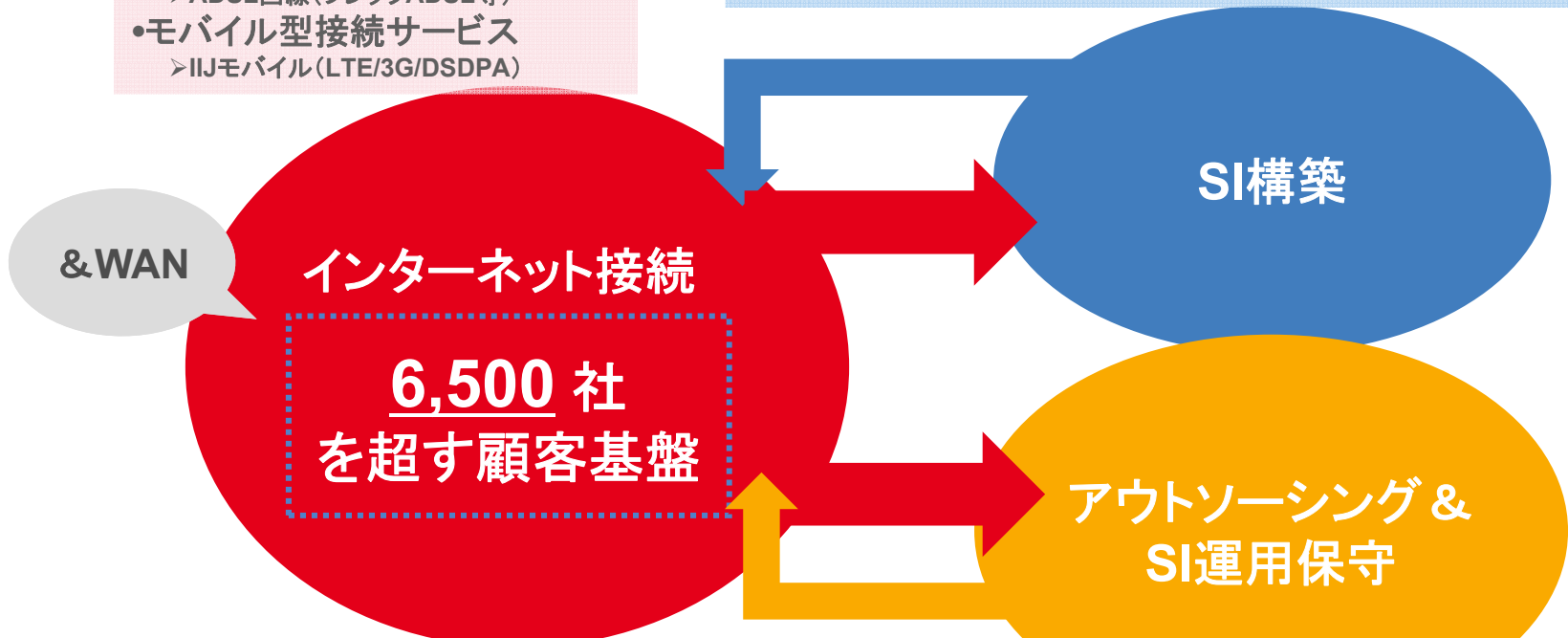
- インターネットバックボーンを継続的に拡大する費用
- 国内大手の独立系ISPとして強い購買力
- 主として、回線、機器、データセンター費用、人件費、外注費
- 売上には直接連動しない
- ネットワークを継続拡充、但しコストはさほど増加しない



好循環なクロスセリングモデル ネットワークサービスの複合提供

- 専用線型接続サービス
 - IPサービス (64kbps ~ Gbps超)
 - IPv6サービス 他
- ブロードバンド型接続サービス
 - 光回線 (Bフレッツ等)
 - ADSL回線 (フレッツADSL等)
- モバイル型接続サービス
 - IIJモバイル (LTE/3G/DSDPA)

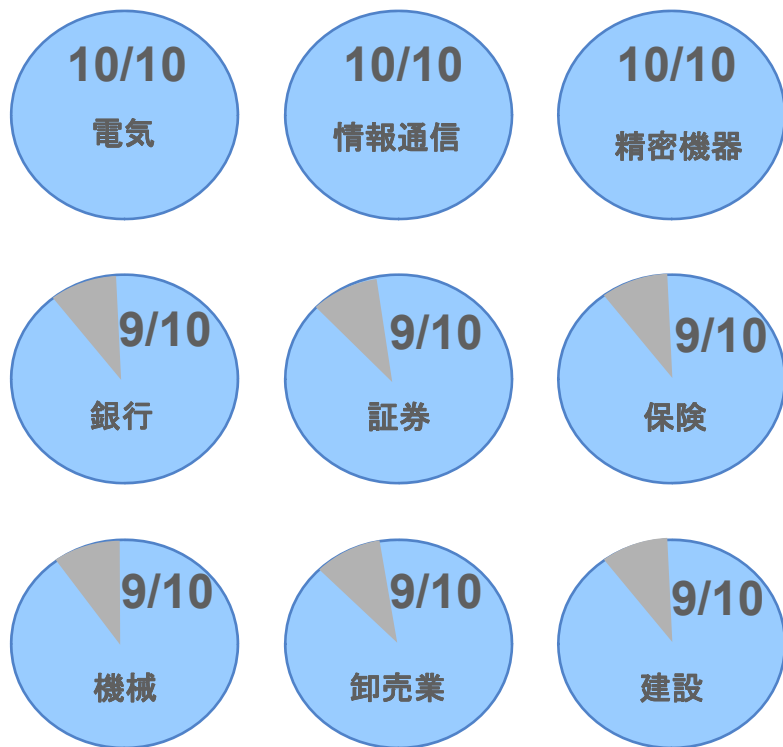
- ネットワーク関連案件
 - 拠点間接続
 - コンテンツ配信プラットフォーム
 - メールシステム構築 他
- アプリケーション開発型案件
 - オンライン証券システム
 - チケットシステム
 - オンラインショッピングシステム 他



- アウトソーシング:
- ①データセンター関連サービス
 - ②セキュリティ関連サービス
 - ③サーバ関連サービス
 - ④ネットワークゲートウェイ関連サービス
 - ⑤IIJ GIOホスティングパッケージサービス
- SI運用保守:
- ・構築したシステムの運用保守
 - ・IIJ GIOコンポーネントサービス

優良顧客基盤

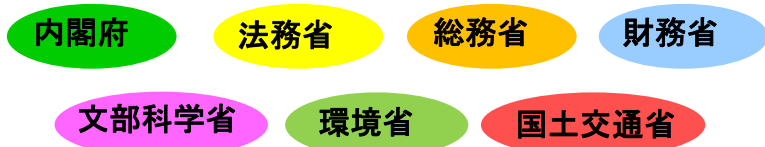
業界上位10社における IJサービスの浸透率



(出典)

東洋経済新報社「会社四季報CD-ROM」、及び日本実業出版社「業界シェア&市場規模」等から当社作成

日本を代表する企業との長い信頼関係

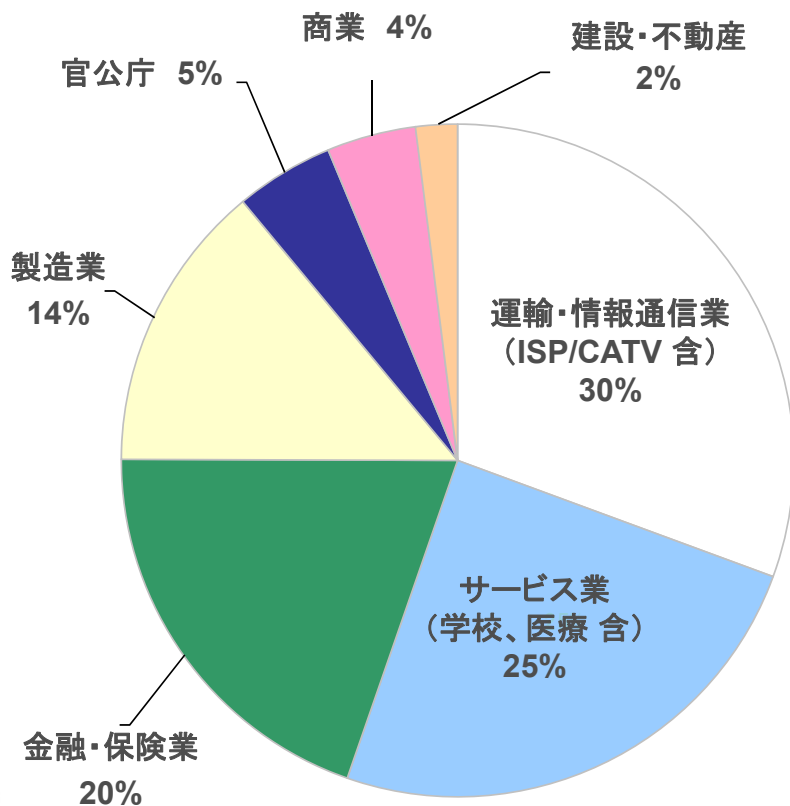


その他多数

業種・顧客別の売上高分布

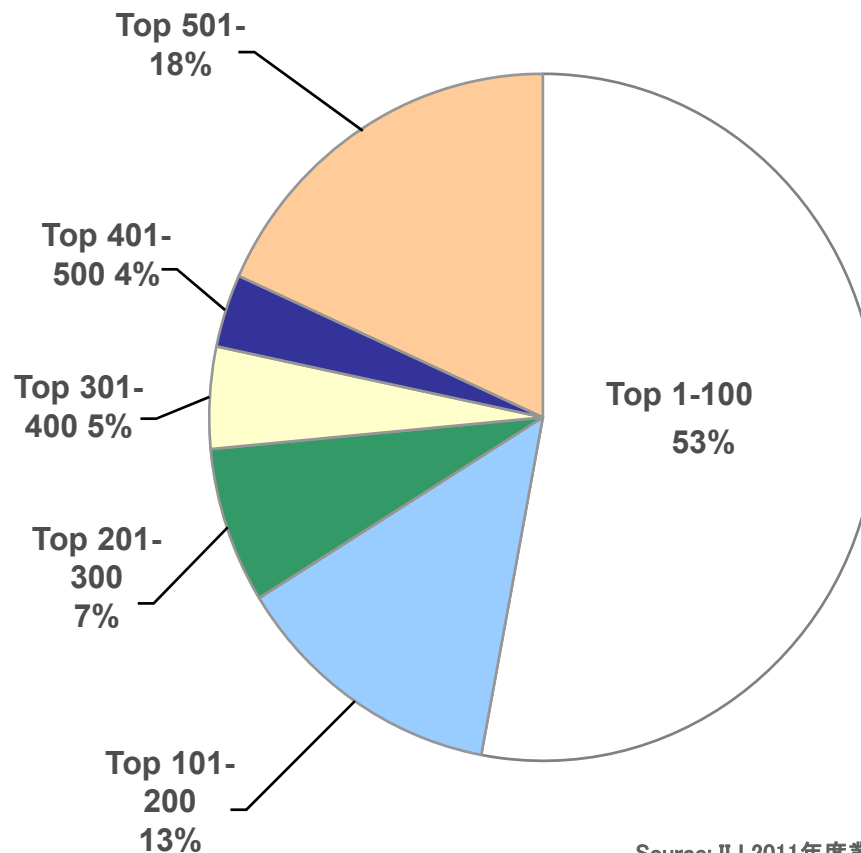
業種別売上高分布

特定業種に依存しない顧客構造



顧客別売上高分布

6,500社のうち500社で売上の3/4を形成

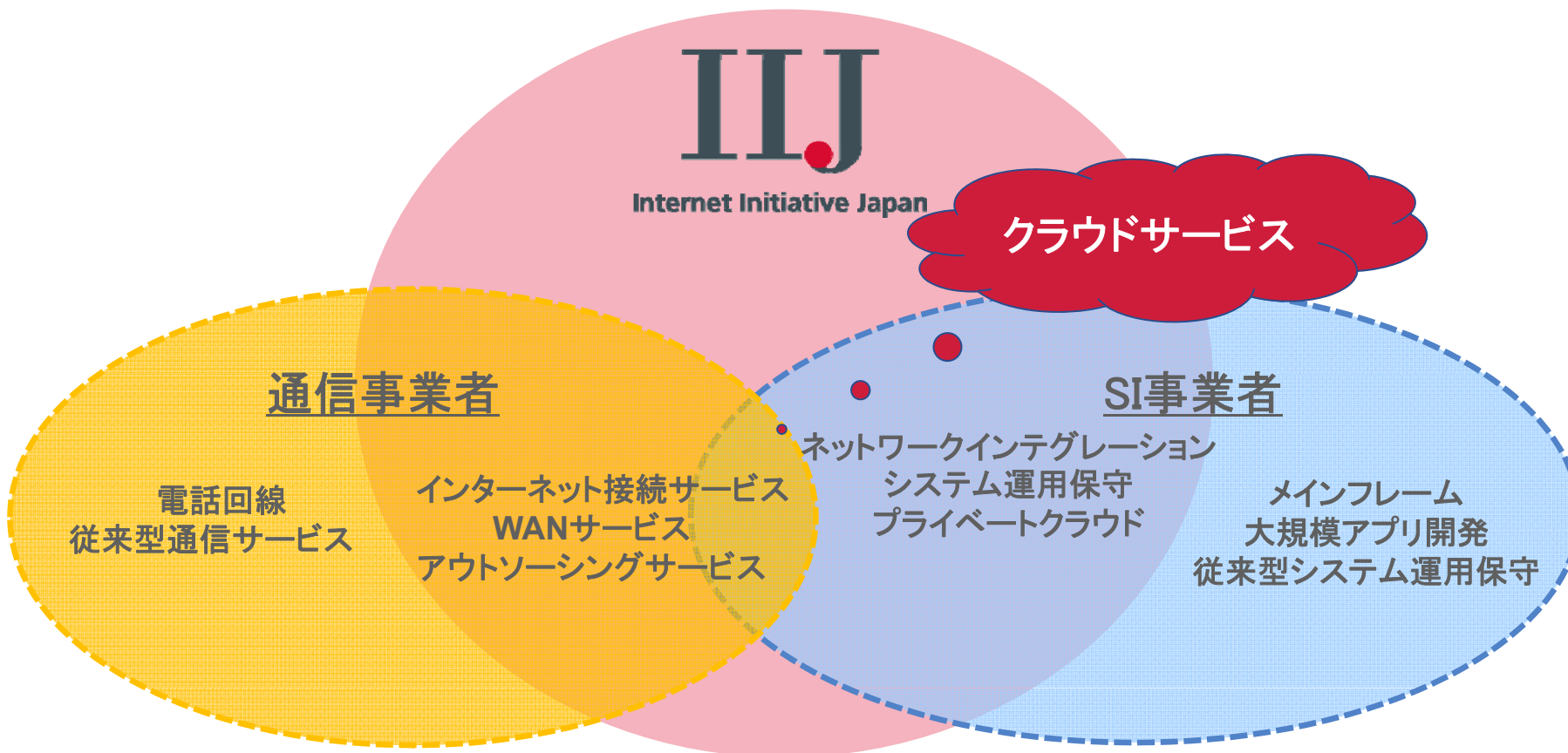


Source: IIJ 2011年度業績

事業領域と競合関係

- トップレベルのIPエンジニア集団
- IT市場のニーズに早急に対応できる高い技術力
- 大企業中心のターゲット顧客層
- 情報システム部門に対する高い認知度・ブランド力
- 風通りのよいフラットな職場環境

- 国内最大級バックボーンを構築、運営
- 先進的なサービスを自社開発
- 従来型システム開発ではなく、新しいIT市場をターゲット
- 設立来培ってきたサーバ運用の豊富な実績
- 多くない従業員数



継続的な成長戦略

クロスセリング戦略の推進

高品質・高信頼性サービスの継続提供

新技術、課題に対応する新サービスの継続開発

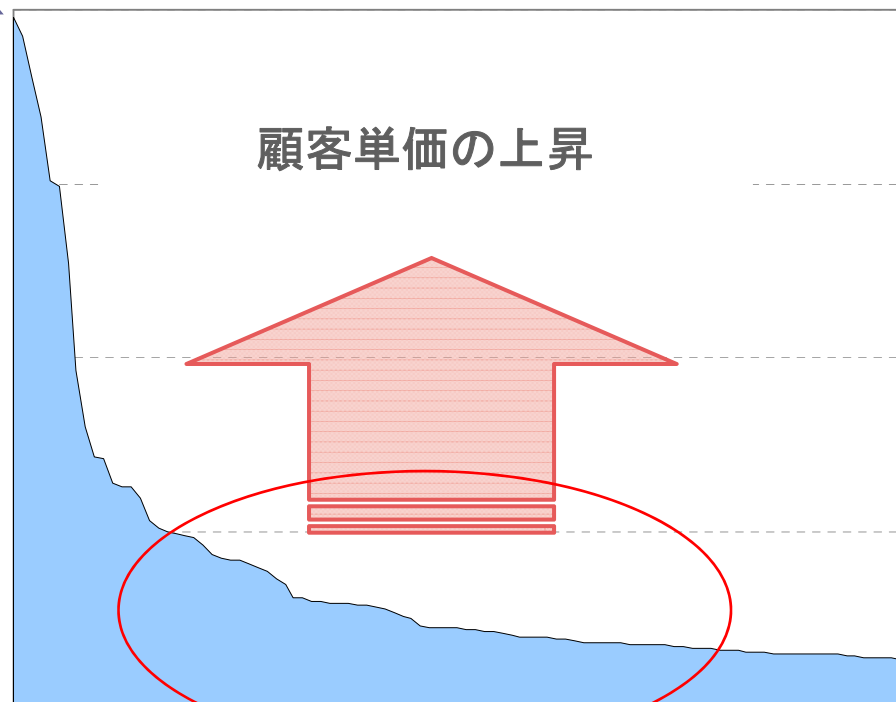
顧客基盤のレバレッジ、強化

企業ネットワークシステム変革機会の捕捉

ネットワークサービス事業者との強みの最大限発揮

クラウドサービス注力

売上高
(百万円)

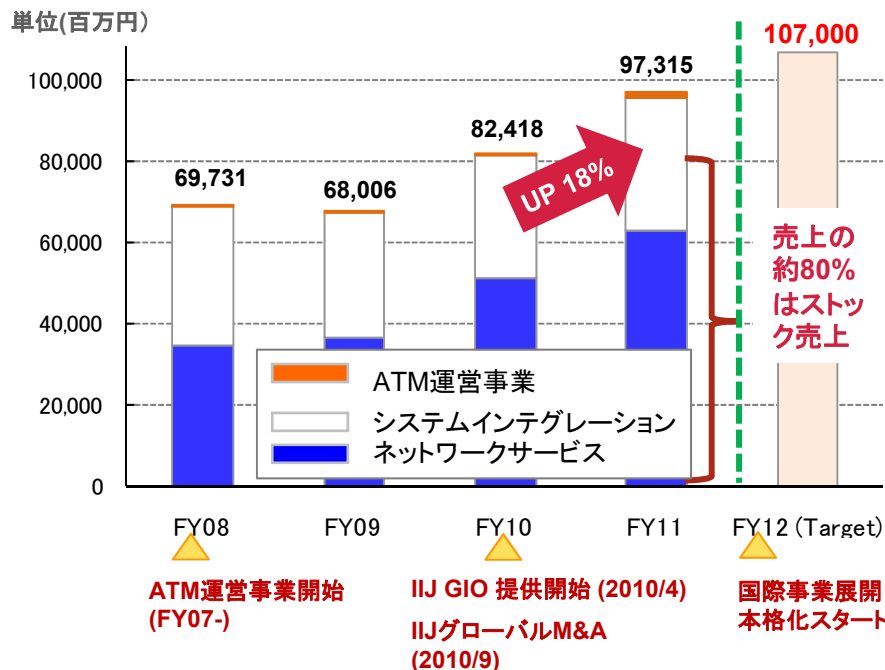


顧客数
(~6,500)

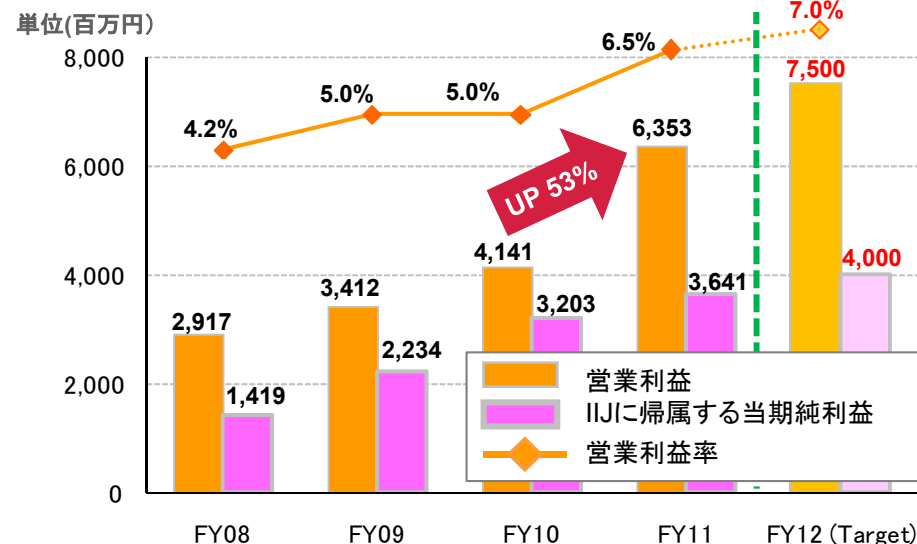
アウトソーシング、クラウドニーズの高まり
中長期的に必要な不可欠なIT投資需要

業績推移とFY2012見通し(2012年5月15日発表)

売上高



営業利益・営業利益率・当期純利益



- ◆ 売上の80%以上はストック売上
- ◆ スtock型積上げ売上による堅調な業績推移
 - 2012年3月期は年増19.8%
 - 追加受注の積上げ、解約はごく稀
- ◆ 営業利益はストック売上増に伴い増益

今後の成長戦略

接続サービス

- 2000年代初頭の激しい価格競争を勝ち抜く、数社のみ健在
- 急速なトラフィック増 → 契約広帯域化 → 更なる売上増加
- インターネットバックボーン上に多数のサービスを複合提供、スケールメリットビジネス
- 法人向けインターネット接続サービスの売上増加

FY2011: 前年比5%増、1Q12: 前年同期比7.9%増

クラウドサービス

- 急速に立ち上がり中のクラウドマーケット、企業社内システムのクラウド化進行中
- 従来型のシステム開発からネットワークアウトソーシングへのシフト加速
- クラウド市場をリード中、2年間で約800社のお客様を獲得
- 売上推移: FY10 6億円 → FY11 31億円 → FY12 (計画) 70億円

アウトソーシング・WANサービス

- セキュリティサービスやデータセンター関連サービス等への需要は継続して顕著
- 日々進化するインターネット脅威に対抗するサービスの継続開発

国際事業

- 海外展開を加速する日本企業のサポートのため事業展開
- 米国にて日本の大手SNS業者向けにサーバプラットフォームを構築中
- 米国クラウドは立ち上がり順調、受注を積み上げ中
- 顧客需要に応じたさらなる海外クラウド展開の検討・企画中
- FY12売上目標30億円超、1Q12売上は約10億円と想定を上回り進捗

ATM運営事業

- ATM利用手数料のビジネスモデル
- 月次積上げ型のストックビジネスとしてATM継続設置に伴い業績拡大の見通し

研究開発

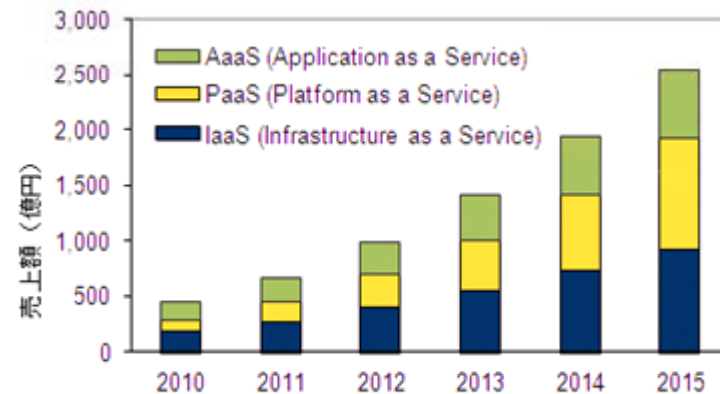
- 中長期的成長にて研究開発には引き続き注力
- ネットワーク仮想化が現在のキーテーマ: SDN基盤開発を遂行中、今期中に製品リリース予定

クラウドマーケットをリードする IIJ GIO サービス



- 2010年4月よりサービス提供開始
- IaaS/PaaSサービス中心、プライベートクラウド注力
- 優良法人企業の社内ITシステムをターゲット
- 高信頼性のサービス提供とネットワーク運用技術による差別化
- サービスラインナップの継続拡充
 - VMware ハイパーバイザー機能を提供、ハイブリッドクラウドをターゲット
 - オラクルDB月額課金でクラウド提供(国内初)
- 国内パブリッククラウド市場でナンバーワンシェアとの評価(富士キメラ総研2012年7月レポート)

クラウド市場規模予想(IDC)
2015年の市場規模:2010年の約5倍強と予測

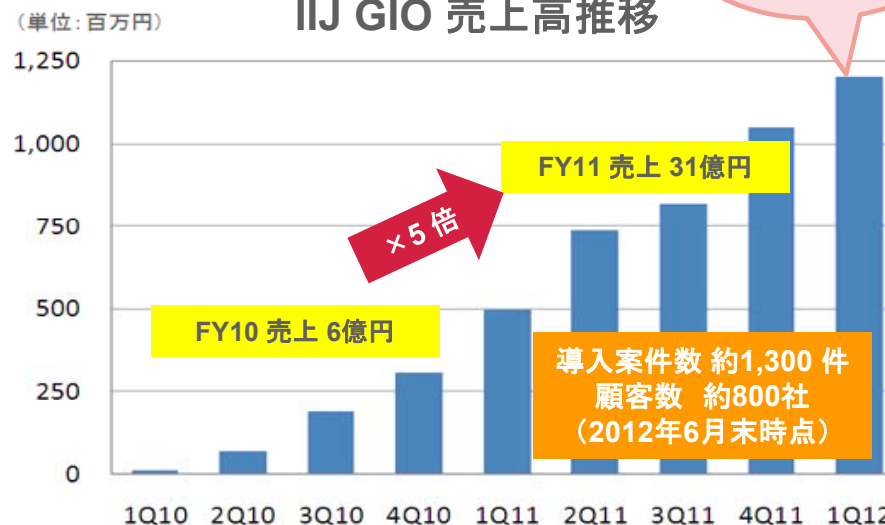


(出所: IDC 2011.11)

多くの大手法人での IIJ GIO 導入事例増加中



IIJ GIO 売上高推移



FY12計画
売上 70億円

国内初のコンテナ型データセンター

IIJ GIO

- コンテナ型だから実現できる価格優位性と設備の高効率性
- 外気冷却による大幅な電力削減、CO2排出量削減
- 数千台のサーバ機器を搭載したコンテナを車両にて輸送可能
- 2012年8月 特許取得(2011年4月開設)

＜松江データセンターパーク＞



数々の賞を受賞

- ・2012年10月
 - 「グリーンITアワード2012/商務情報政策局長賞」
 - 「2012年グッドデザイン賞/グッドデザイン・ベスト100」、
 - 「グリーン・グリッド・データセンター・アワード2012/特別賞」
- ・2012年6月
 - 「MM総研大賞2012/グリーンIT賞」
 - 「第6回ASP・SaaS・クラウドアワード2012/ベスト地域貢献賞」

＜コンテナ外観＞



＜コンテナ内部＞



国際事業の進捗

日本企業のグローバル化に伴い、海外でのネットワークサービスとサーバ構築運用の需要拡大

- ◆ 1996年より米国にてバックボーンネットワーク運営、在米日系企業向けにネットワークサービス提供中
- ◆ 米国にて国内大口のSNSゲーム顧客のプライベートクラウド構築、運用中
- ◆ 米国クラウド順調に立ち上がり稼働中、需要増に応じサーバ設備継続拡充中
- ◆ 海外各国でのSI事業に強みのあるIIJエクスレイヤを2012年4月に子会社化、協働にて海外事業の展開加速を展望
- ◆ IIJグローバルにて上海とバンコクに現地法人設立
- ◆ 提供中の国際サービス：
 - 米国インターネット接続サービス
 - 米国、中国向けクラウドサービス
 - 国際WAN、国際インターネットVPNサービス
 - 海外でのサーバ構築・運用
 - マルチリンガル(日・英・中)のヘルプデスク

IIJグループ海外拠点



- 1Q12 売上高: 約10億円、想定を上回り進捗
- 海外大口サーバ構築案件の継続獲得
- 顧客需要に応じた更なる海外クラウド展開の検討・企画中
- 国際WAN案件、商談規模200件と増加中

2013年3月期連結業績見通し (2012/5/15発表)

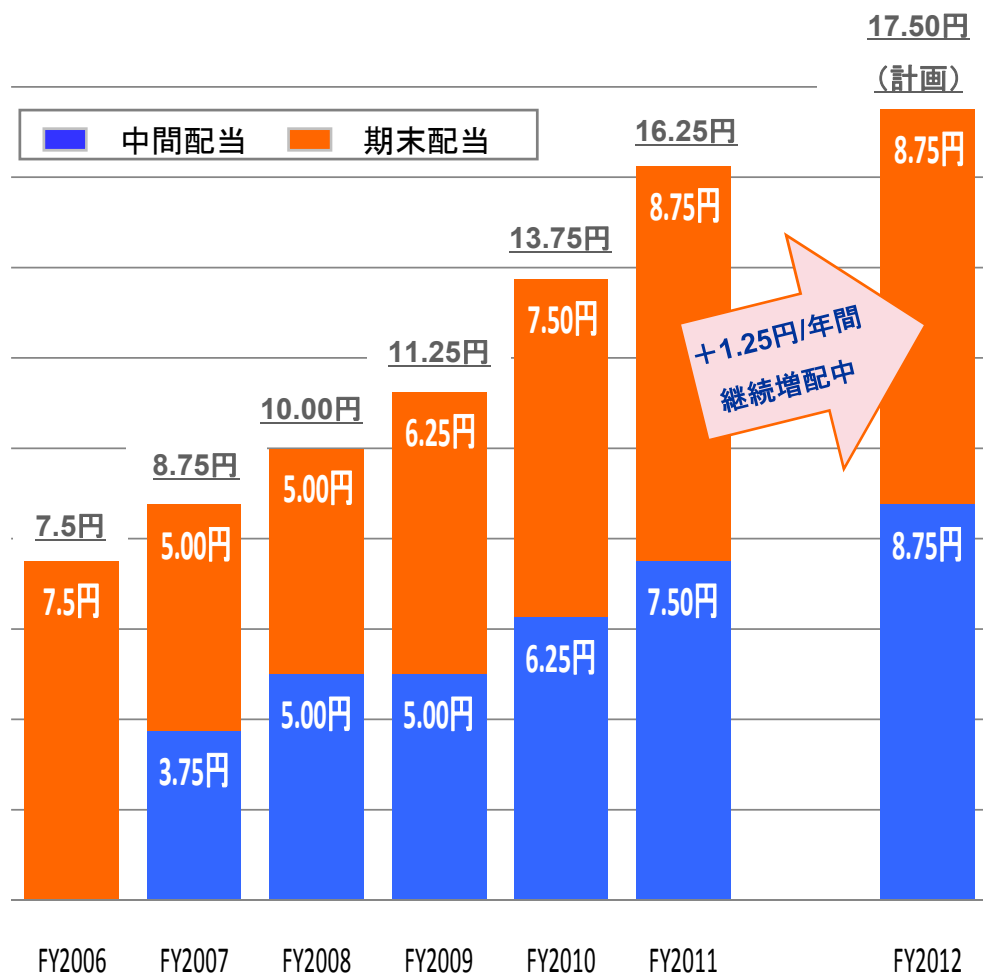
単位:億円

	FY2012 見通し (12/4~13/3)	FY2011 実績 (11/4~12/3)	前年度比	
営業収益 (売上高)	1,070.0	973.1	96.9	10.0%
営業利益	75.0	63.5	11.5	18.0%
税引前 当期純利益	69.0	59.8	9.2	15.5%
当社株主に帰属 する当期純利益	40.0	36.4	3.6	9.9%
一株当たり当社 株主に帰属する 当期純利益(※)	98.68円	89.82円	+8.86円	9.9%
一株当たり 配当金(※)	17.50円 (年間)	16.25円 (年間)	+1.25円	7.7%

(※) 2012年10月1日に当社株式1株を200株に分割しております。

当該株式分割に伴う影響を加味し遡及修正をした「一株当たり当社株主に帰属する当期純利益」と「一株当たり配当金」を掲載しております。

配当推移・株式分割



株式分割

2012年10月1日(効力発生日)付で
1:200の株式分割を実施

株式売買単位: 1株→100株
 発行済株式数: 206,478株→41,295,600株
 最低投資金額: 425,800円→212,900円
 ※ 例) 2012年9月28日終値

事業成長に必要な内部留保に配慮しつつ、
継続的かつ安定的な配当に努めてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

投資家様向け情報サイト
<http://www.iij.ad.jp/ir>

【ご参考資料】
2013年3月期 第1四半期
連結業績説明会資料
(2012年8月7日 発表)

I . 2013年3月期 第1四半期 総括

＜＜ 2013年3月期 第1四半期 実績 ＞＞

・営業収益(売上高)	24,841百万円 (前年同期比 6.3%増)
・売上総利益	4,819百万円 (前年同期比 7.1%増)
・営業利益	1,374百万円 (前年同期比 50.2%増)
・税引前四半期純利益	1,373百万円 (前年同期比 58.7%増)
・当社株主に帰属する四半期純利益	897百万円 (前年同期比 75.0%増)

●事業進展・業績面ともに順調な1Qスタート

- インターネット接続サービス:(法人)広帯域利用により伸び加速、(個人)LTEサービス好調(2012/2提供開始)、前Q比で増収
- クラウドサービスのラインアップ継続強化、顧客基盤の継続拡大、信頼性による差別化
- 海外SI・米国クラウドを中心に国際事業は想定以上の立ち上がり、需要増により米国クラウド設備前倒し増設中
- ATM運営事業ようやく黒字化、ストックビジネスとしてATM継続導入にあわせ業績拡大の見通し
- 中期展望したSDN基盤開発を遂行中、下期目処に製品リリース予定
- 粗利継続拡大・販売管理費スケールメリット等により増益進展中

●クラウドサービス「IIJ GIO」順調に拡大中

- 1Q12クラウド売上: 12億円、前年同期比約7億円増、2012年6月末導入案件数:約1,300件(3月末:約1,100件)
- 松江コンテナDC商用提供拡大、「グリーンIT賞」「ベスト地域貢献賞」を受賞
- IIJ GIO仮想化プラットフォームVWシリーズ(8月より提供開始)にてハイブリッドクラウド市場をターゲット、商談積み上げ中
- 国内パブリッククラウド市場でナンバーワンシェアとの評価(富士キメラ総研2012年7月レポート)

●国際事業の順調な立ち上がり

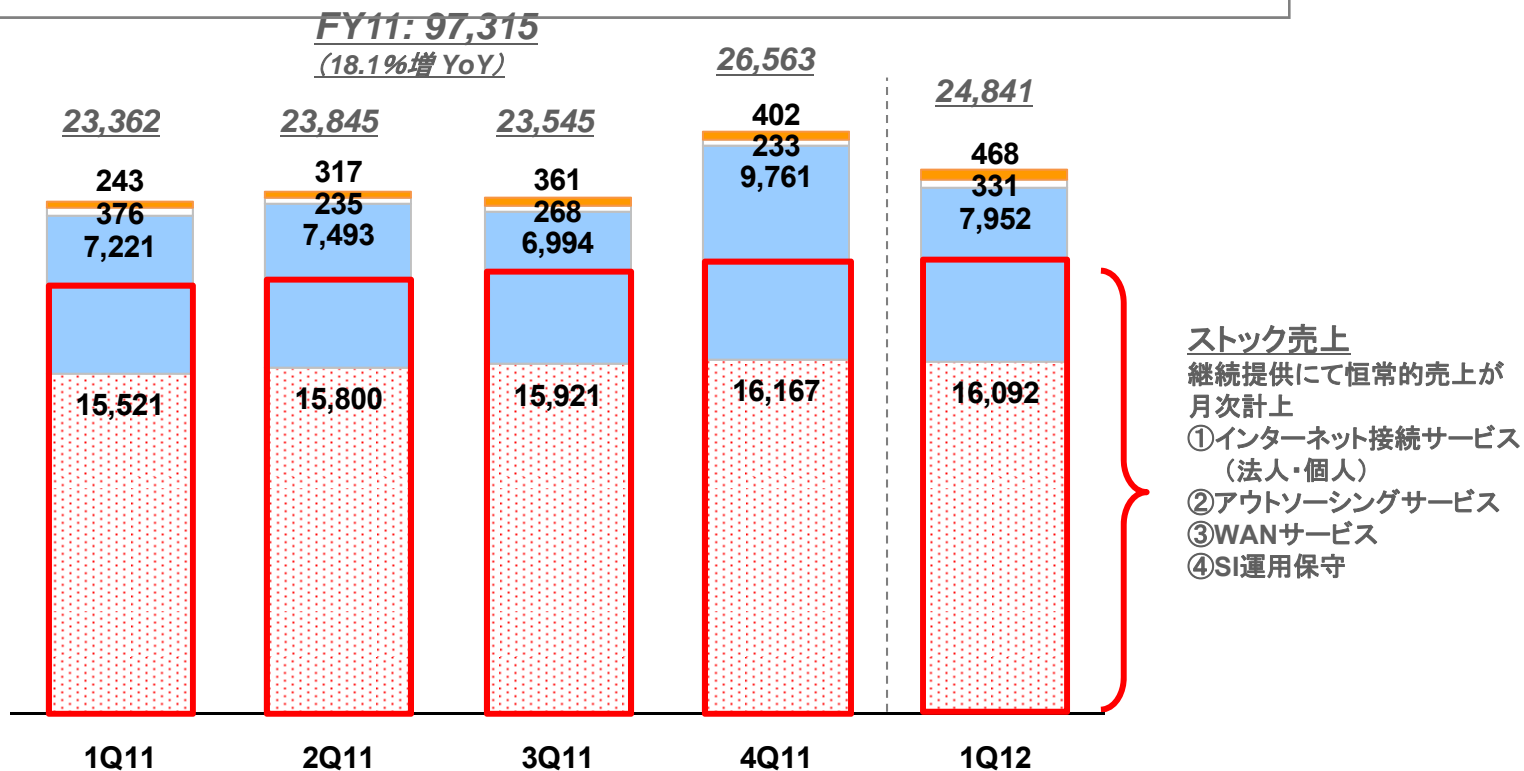
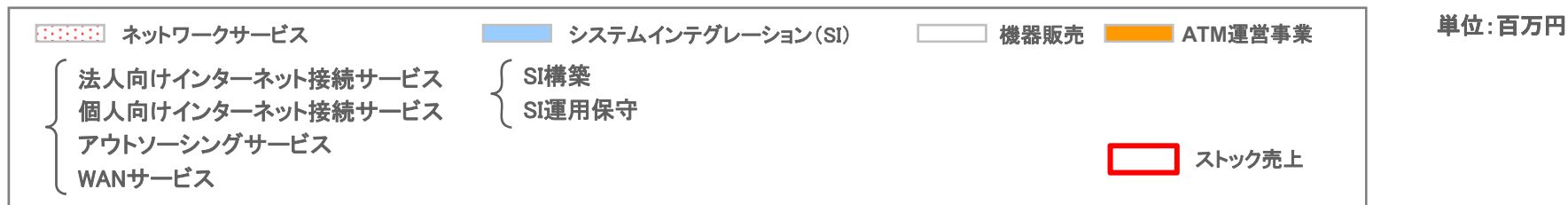
- 1Q12国際事業売上: 約10億円、SNS事業者向け海外大口サーバ構築案件遂行、米国IIJ GIO稼働拡大等
- 2012/4にIIJエクスレイヤ取得、サーバ構築案件等で協働・連携、2QよりPL連結開始

Ⅱ-1. 2013年3月期 第1四半期 連結実績サマリー

単位: 億円

	売上比		前年同期比	売上比	
	1Q12 (12/4~12/6)	1Q11 (11/4~11/6)		FY12上期計画 (12/4~12/9)	前年上期比
営業収益 (売上高)	248.4	233.6	6.3%	505.0	7.0%
売上原価	80.6% 200.2	80.7% 188.6	6.2%	—	—
売上総利益	19.4% 48.2	19.3% 45.0	7.1%	—	—
販売管理費等	13.9% 34.5	15.4% 35.9	△4.0%	—	—
営業利益	5.5% 13.7	3.9% 9.1	50.2%	5.3% 27.0	10.3%
税引前 四半期純利益	5.5% 13.7	3.7% 8.7	58.7%	5.0% 25.0	9.1%
当社株主に 帰属する 四半期純利益	3.6% 9.0	2.2% 5.1	75.0%	2.8% 14.0	2.8%

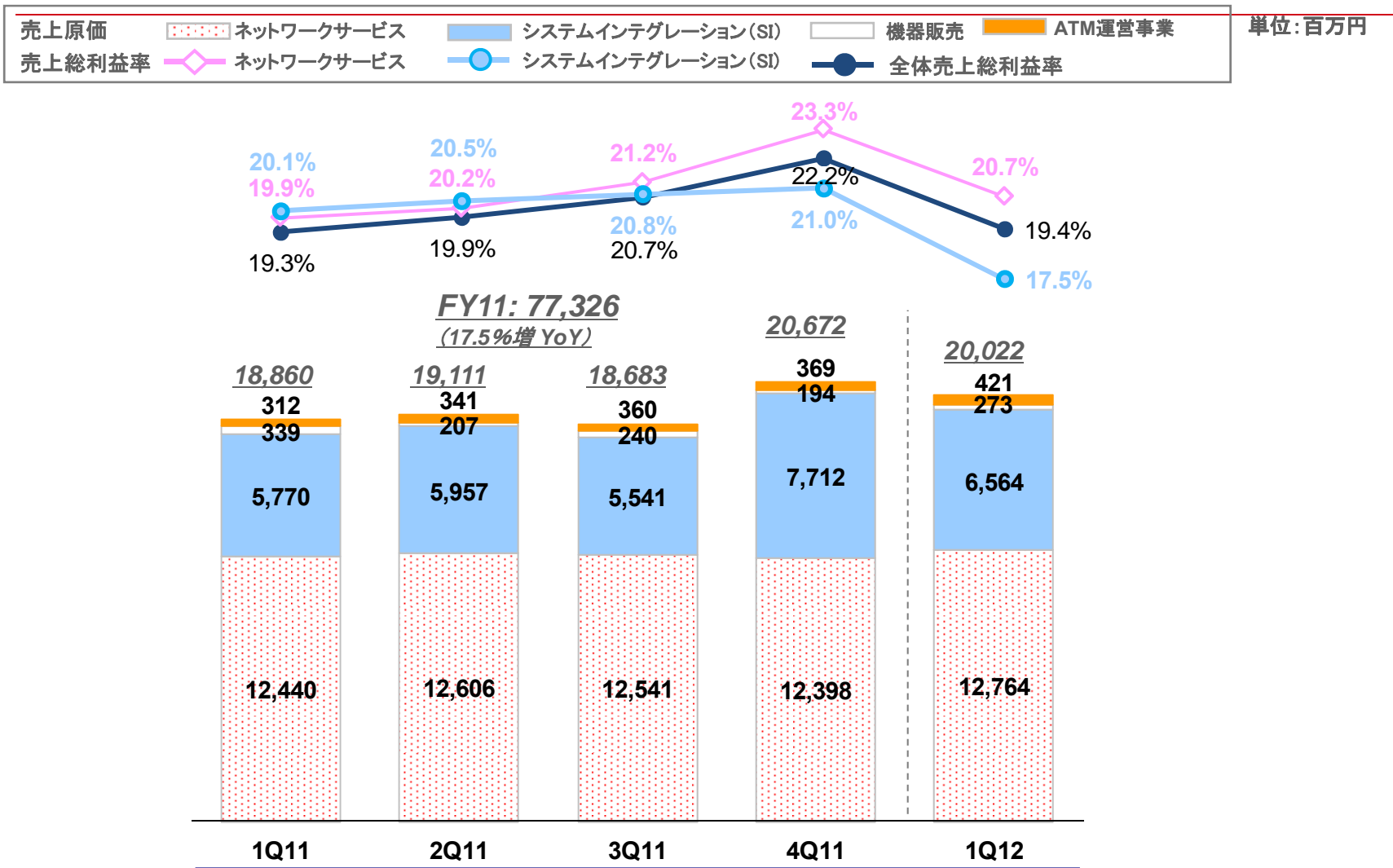
Ⅱ-2. 営業収益(売上高)の推移



- ◆1Q12ネットワークサービス: 16,092百万円(1Q11比 3.7%増)
- ◆1Q12システムインテグレーション: 7,952百万円(1Q11比 10.1%増)
- ◆1Q12機器販売: 331百万円(1Q11比 12.0%減)
- ◆1Q12ATM運営事業: 468百万円(1Q11比 224百万円・92.1%増)

- ◆1Q12ストック売上: 21,283百万円(1Q11比 5.2%増)
 > 売上構成比率: 85.7%
- ◆1Q12一時売上(SI構築+機器販売): 3,091百万円
 (1Q11比 6.8%増)

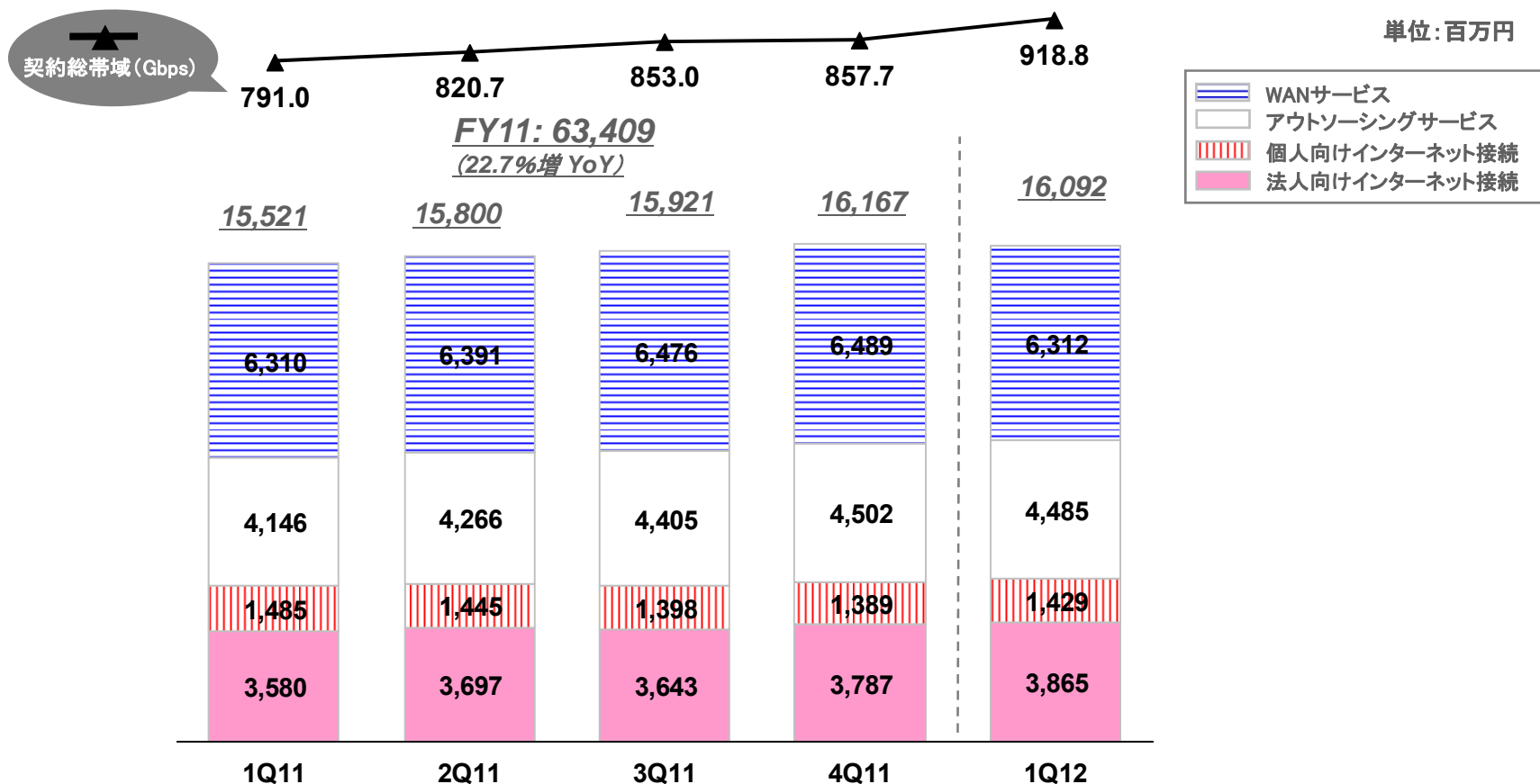
II-3. 売上原価・売上総利益率の推移



◆1Q12売上総利益: 4,819百万円 (1Q11比 318百万円・7.1%増)
 ▶ ネットワークサービス売上総利益: 3,328百万円 (1Q11比 246百万円・8.0%増)
 ▶ システムインテグレーション売上総利益: 1,388百万円 (1Q11比 64百万円減)
 ▶ ATM運営事業売上総利益: 46百万円 (1Q11: △68百万円、4Q11: 33百万円)

Ⅱ-4. ネットワークサービス

① 売上の推移

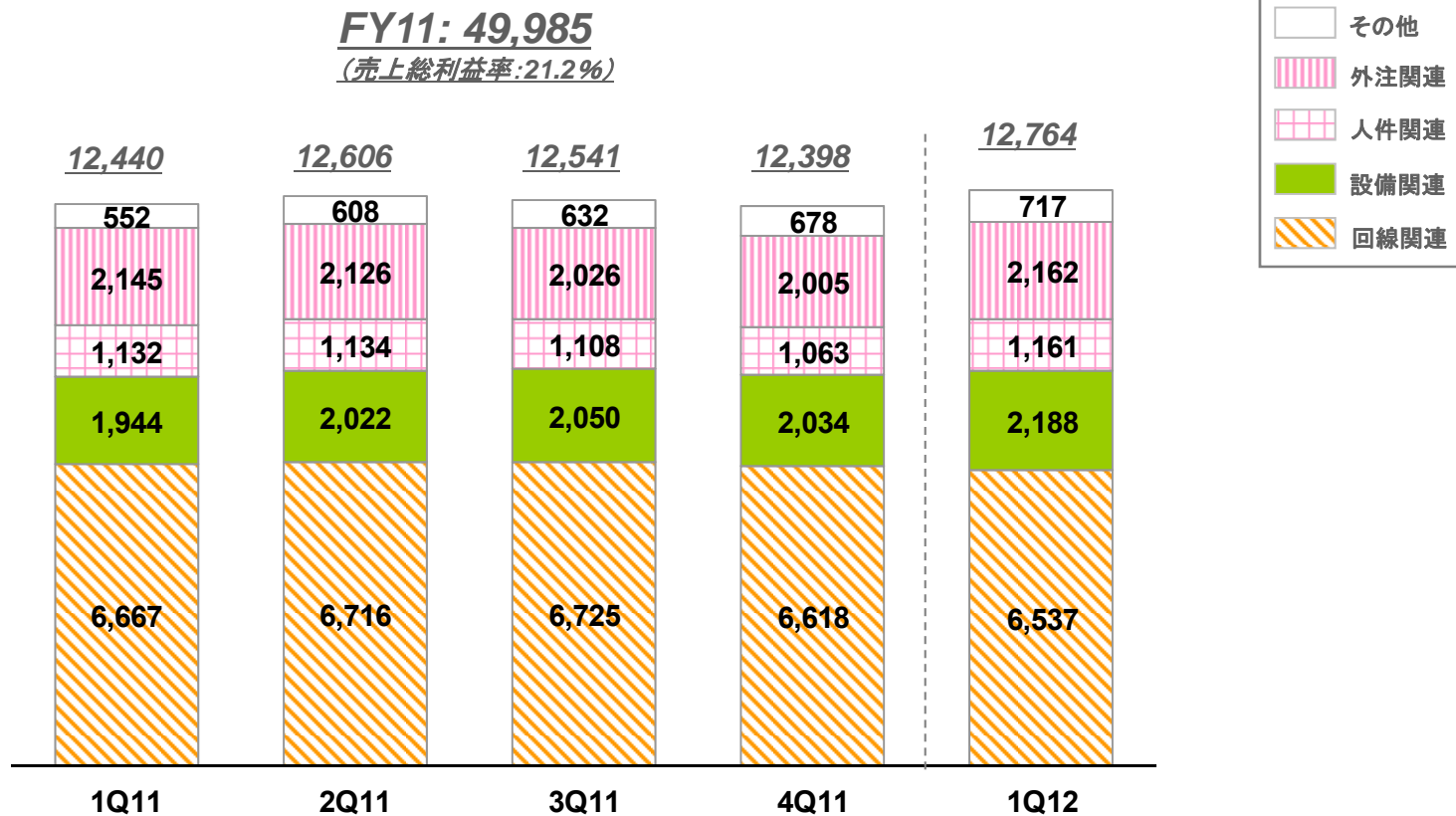


- ◆ 1Q12法人向けインターネット接続サービス: 1Q11比 285百万円・7.9%増、4Q11比 78百万円・2.1%増
 - IPサービス売上高はGbps超顧客の広帯域利用進展等により増収。1Q12末Gbps超契約件数: 142件 (1Q11末: 131件)
 - IIJモバイルは新規案件獲得が順調に推移。1Q12末契約件数: 47,442件 (1Q11比 4,108件増、4Q11比 1,113件増)
- ◆ 1Q12個人向けインターネット接続サービス: 1Q11比 56百万円減、4Q11比 40百万円・2.9%増
 - IIJmio/LTEサービス順調。7月末受注契約件数: 約25,000件 (4月末受注契約件数: 約13,000件)、1Q12売上: 1億円強
- ◆ 1Q12アウトソーシングサービス: 1Q11比 340百万円・8.2%増、4Q11比 16百万円減。期初価格見直し等にて4Q11比微減
- ◆ 1Q12WANサービス: 1Q11比 2百万円増、4Q11比 177百万円減。期初価格見直し等にて4Q11比減

Ⅱ-4. ネットワークサービス

② 原価の推移

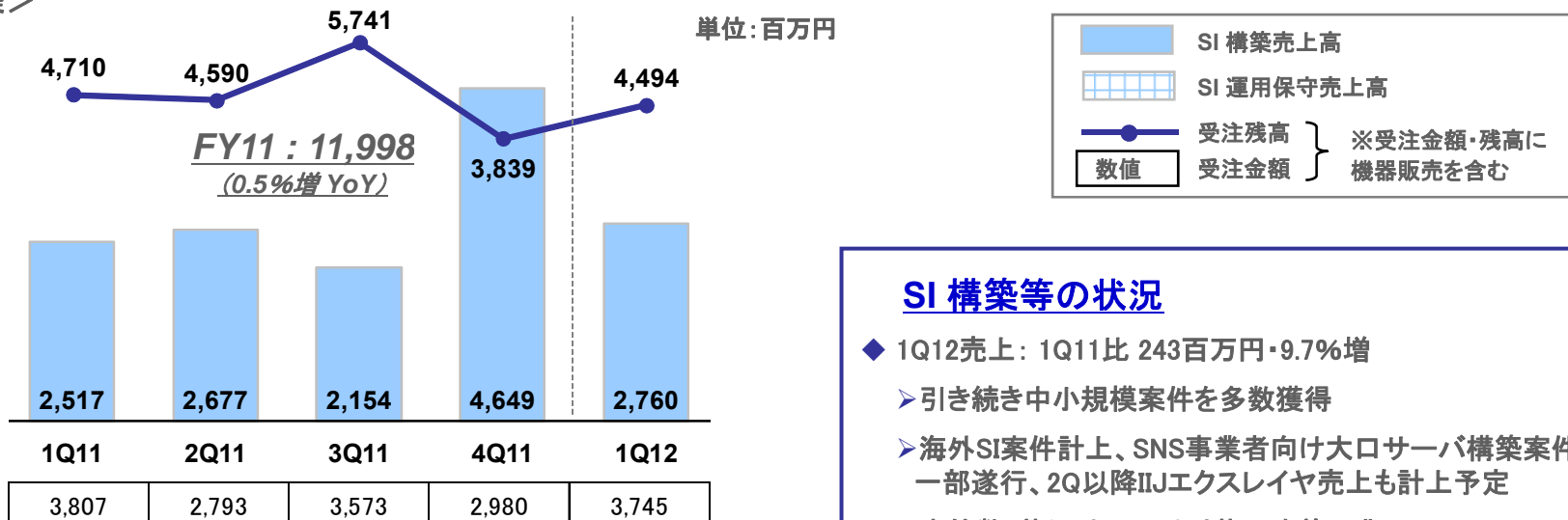
単位：百万円



- ◆ 1Q12ネットワークサービス原価：1Q11比 324百万円・2.6%増、4Q11比 366百万円・3.0%増
 - 回線関連費は継続的に減少
 - 新年度による人件関連費等増、モバイル相互接続費反動増等により4Q11比増加

II-5. システムインテグレーション(SI) ① 売上・受注等の推移

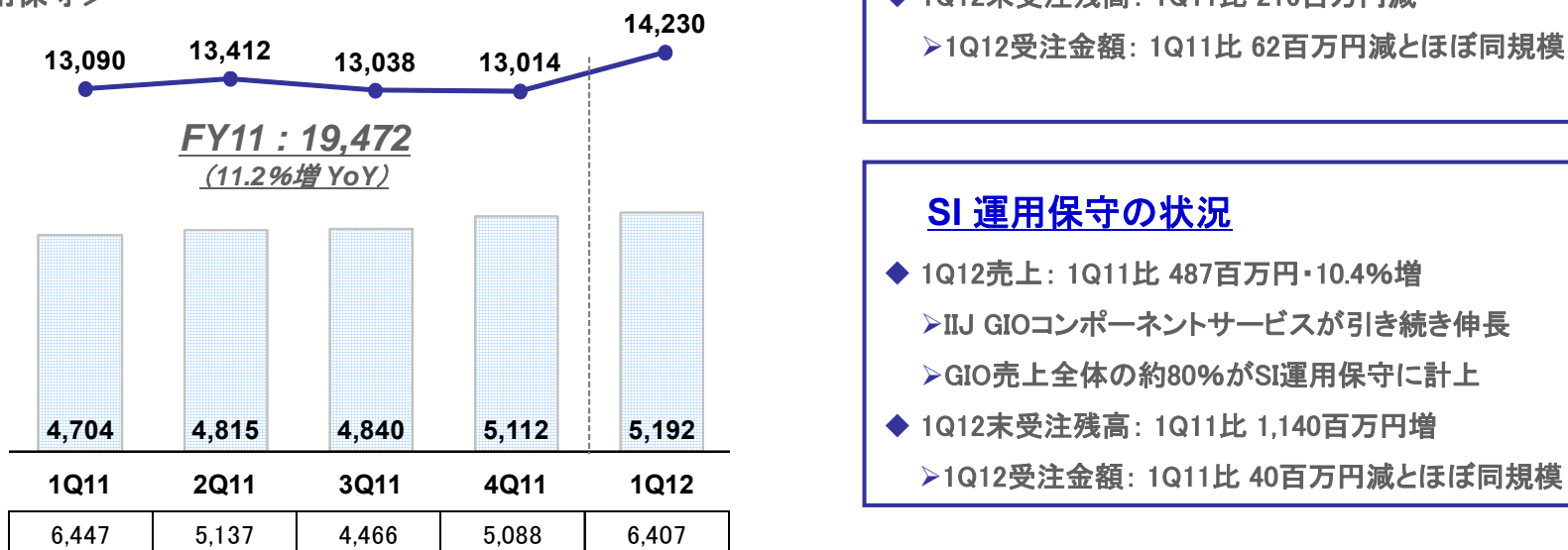
<SI 構築>



SI 構築等の状況

- ◆ 1Q12売上: 1Q11比 243百万円・9.7%増
 - 引き続き中小規模案件を多数獲得
 - 海外SI案件計上、SNS事業者向け大口サーバ構築案件一部遂行、2Q以降IIJエクスレイヤ売上も計上予定
 - 案件数・状況は1Q11より若干改善の兆し
- ◆ 1Q12末受注残高: 1Q11比 216百万円減
 - 1Q12受注金額: 1Q11比 62百万円減とほぼ同規模

<SI 運用保守>

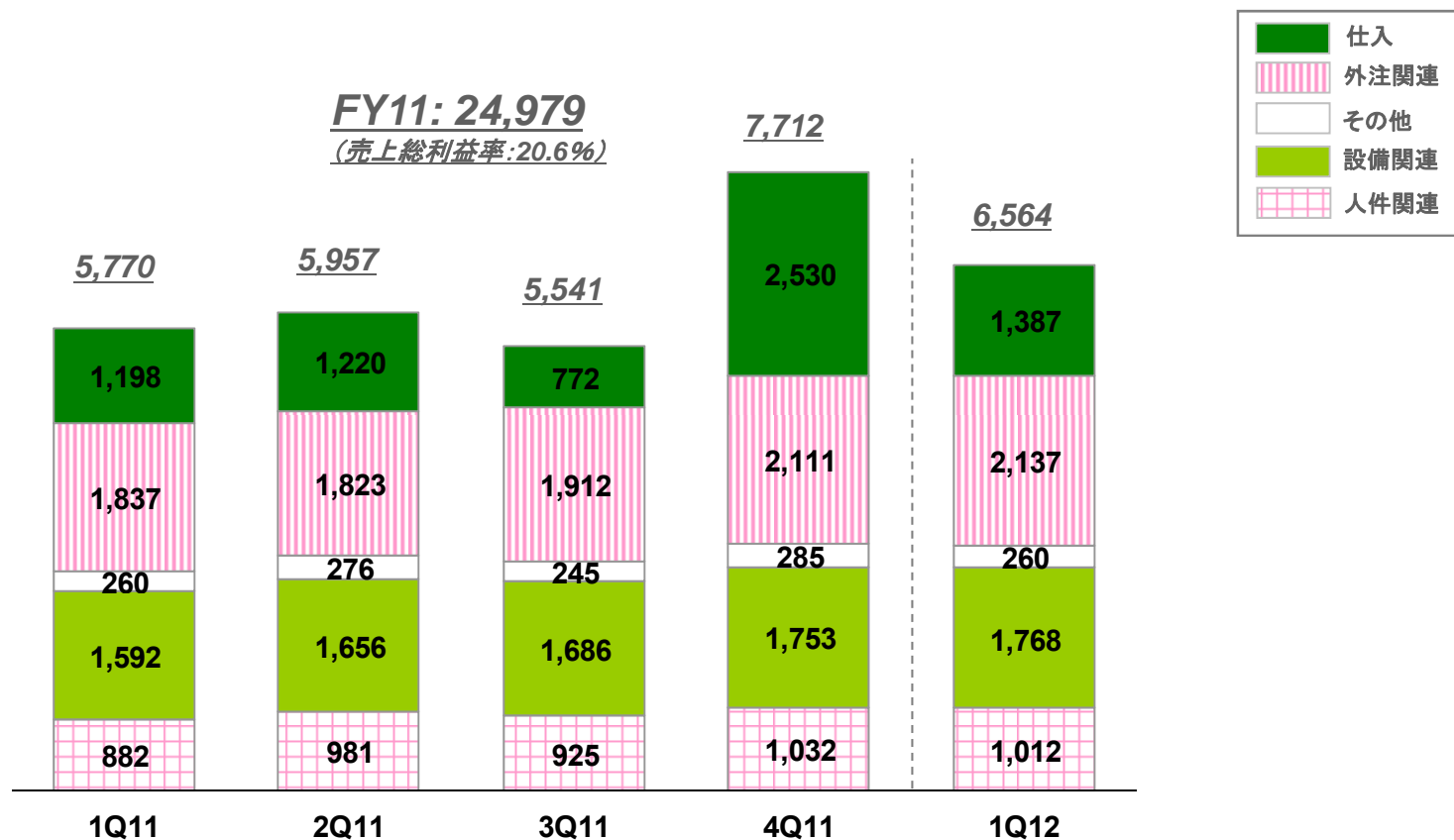


SI 運用保守の状況

- ◆ 1Q12売上: 1Q11比 487百万円・10.4%増
 - IIJ GIOコンポーネントサービスが引き続き伸長
 - GIO売上全体の約80%がSI運用保守に計上
- ◆ 1Q12末受注残高: 1Q11比 1,140百万円増
 - 1Q12受注金額: 1Q11比 40百万円減とほぼ同規模

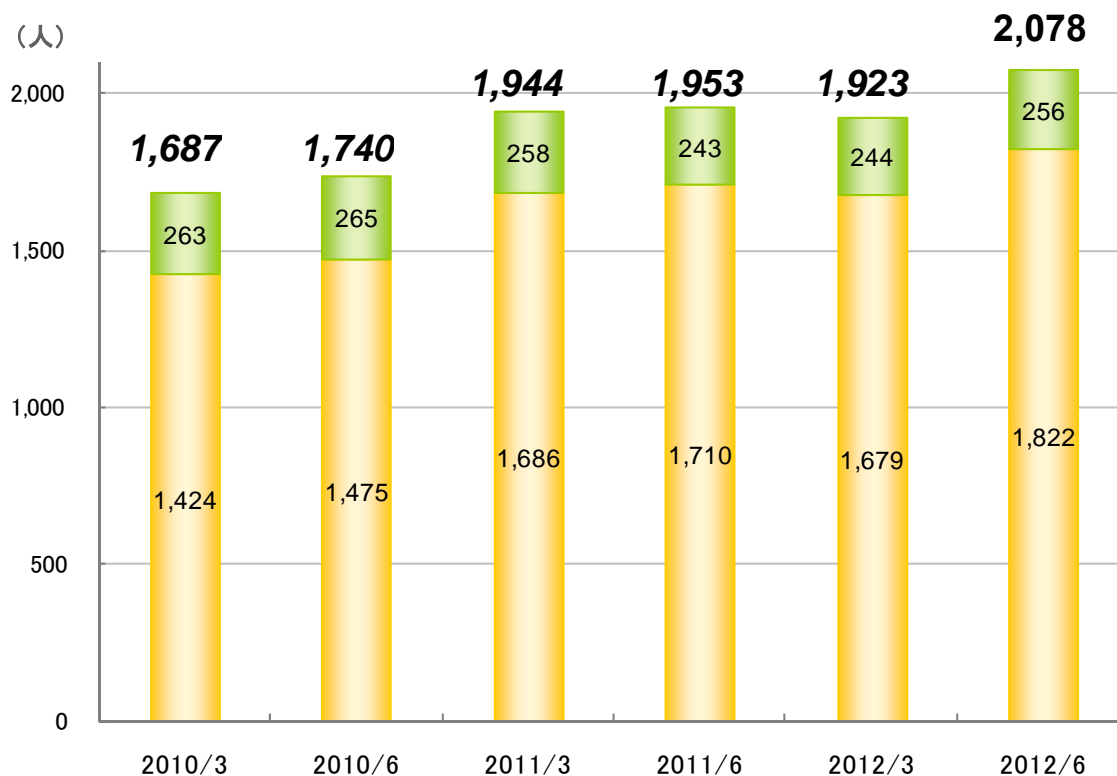
II-5. システムインテグレーション(SI) ② 原価の推移

単位:百万円

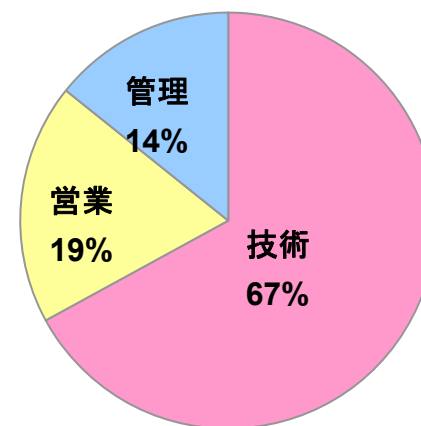


- ◆ 1Q12 SI原価: 1Q11比 794百万円・13.8%増
 - 1Q12末常駐外注人員数: 497名(1Q11末比 100名増、4Q11末比 22名増)
 - SI売上総利益: 1,388百万円(1Q11比 64百万円減)
 - 1Q12は仕入構築案件比率が高く仕入増、粗利低減要因

Ⅱ-6. 連結従業員数の推移



<分野別人員構成>



四半期
人件関連費用総額
(売上高比率)

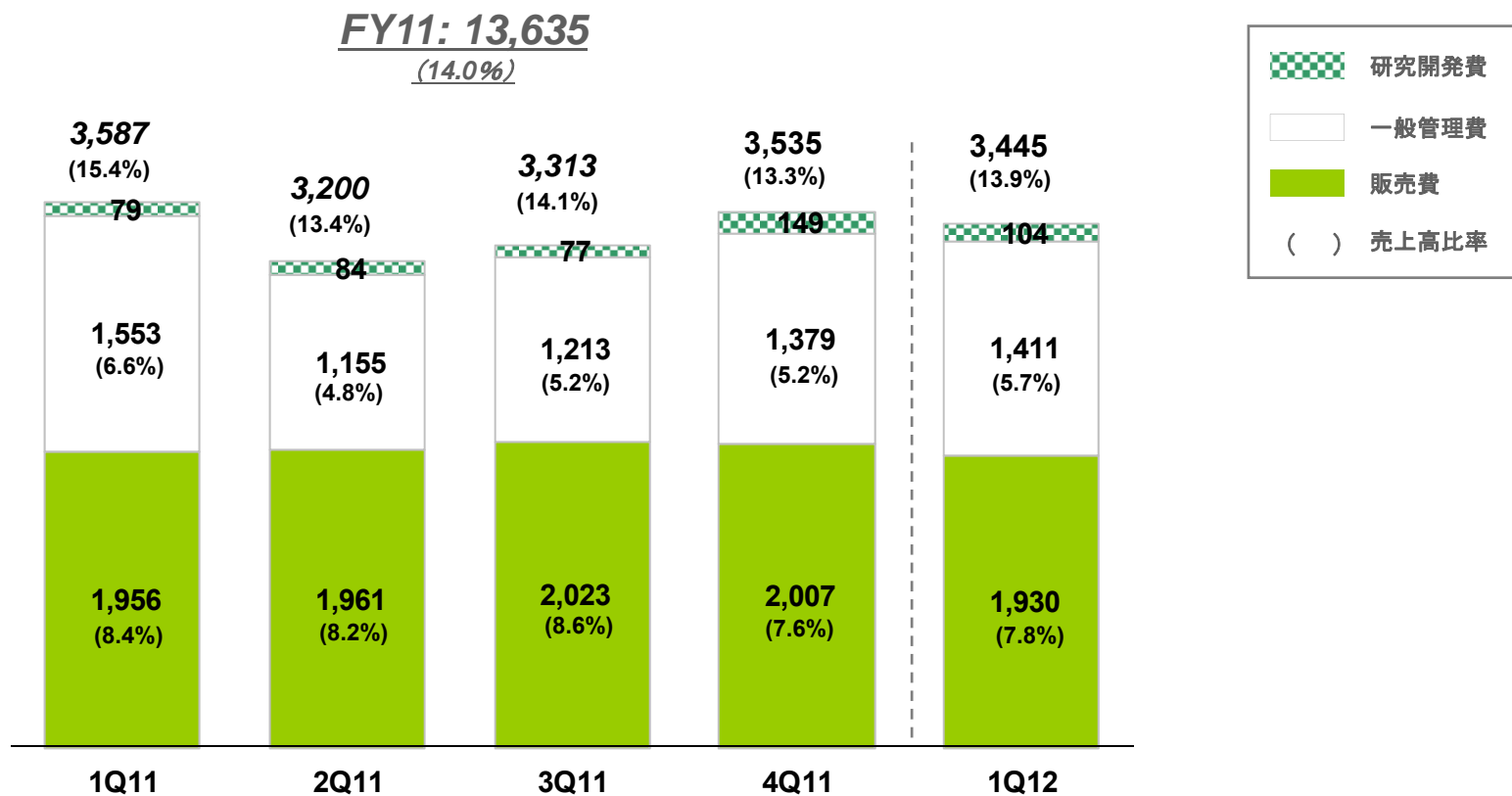
2,887 (14.7%)	2,925 (18.5%)	3,554 (13.9%)	3,627 (15.5%)	3,613 (13.6%)	3,741 (15.1%)
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

単位:百万円

- ◆1Q12末連結従業員数: 2,078名(1Q11末比 125名増、4Q11末比 155名増)
 - 2012年4月入社新卒社員数: 75名(2011年4月実績: 44名)
 - IIJエクスレイヤ従業員数: 57名
 - 1Q12総人件関連費用: 1Q11比 114百万円増

II-7. 販売管理費・研究開発費(SG&A)の推移

単位:百万円

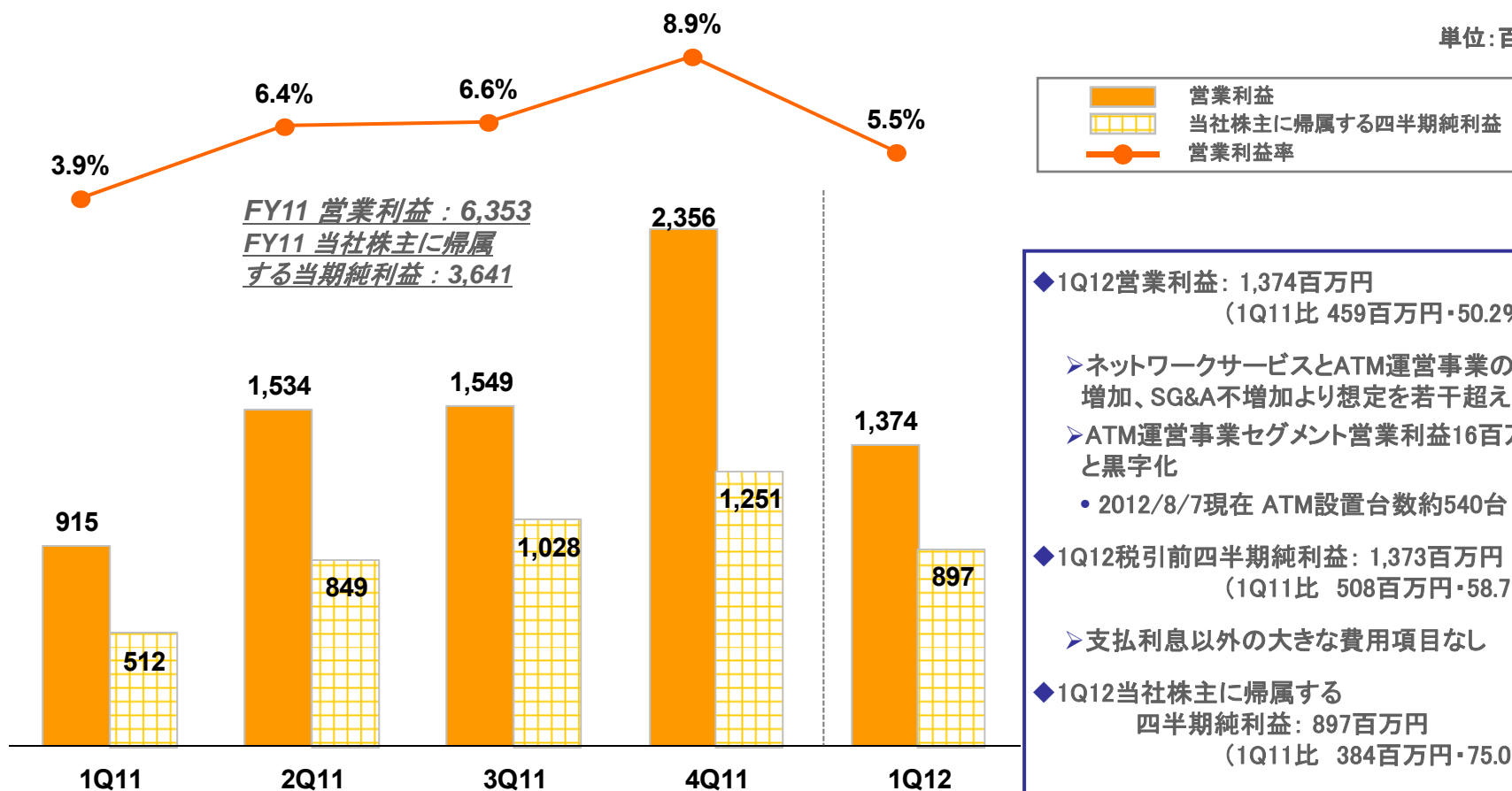


◆1Q12 SG&A: 1Q11比 142百万円減、4Q11比 90百万円減

- 人員増加による人件関連費増、広告宣伝費減、1Q11の子会社引越し費用反動減等より、一時的に前年同期比減
- 売上増加に直接的には連動せず安定推移

Ⅱ-8. 営業利益・当期純利益の推移

単位：百万円



- ◆1Q12営業利益：1,374百万円
(1Q11比 459百万円・50.2%増)
 - ネットワークサービスとATM運営事業の粗利増加、SG&A不増加より想定を若干超えた着地
 - ATM運営事業セグメント営業利益16百万円と黒字化
 - 2012/8/7現在 ATM設置台数約540台
- ◆1Q12税引前四半期純利益：1,373百万円
(1Q11比 508百万円・58.7%増)
 - 支払利息以外の大きな費用項目なし
- ◆1Q12当社株主に帰属する四半期純利益：897百万円
(1Q11比 384百万円・75.0%増)
 - i-revo、インターネットマルチフィード等による持分法利益

	1Q11	2Q11	3Q11	4Q11	1Q12
法人税等	425	631	548	922	515
持分法投資損益	40	37	77	△30	33
非支配持分に帰属する四半期純損失	31	18	11	6	6

Ⅱ-9. 連結バランスシート(サマリー)の状況

	2012年3月末	2012年6月末	前期末比
現金及び現金同等物	13,537	11,470	△ 2,067
売掛金	15,722	14,404	△ 1,318
たな卸資産	752	888	+136
前払費用	1,848	3,419	+1,571
その他投資	2,938	3,235	+296
有形固定資産	19,736	20,828	+1,093
のれん及び その他無形固定資産	11,185	11,230	+46
買掛金及び未払金	9,753	9,530	△ 223
未払法人税等	2,211	171	△ 2,040
銀行借入金(短期・長期)	12,000	11,900	△ 100
欠損金	△10,990	△10,448	+542
その他包括損失累計額	△24	△16	+8
当社株主に帰属する 資本合計	32,688	33,247	+559
総資産	73,493	73,507	+14

単位:百万円

▶ 法人税等の支払い等があり減少

▶ 非上場株式 2,053百万円
▶ 売却可能有価証券 828百万円
▶ 出資金 353百万円

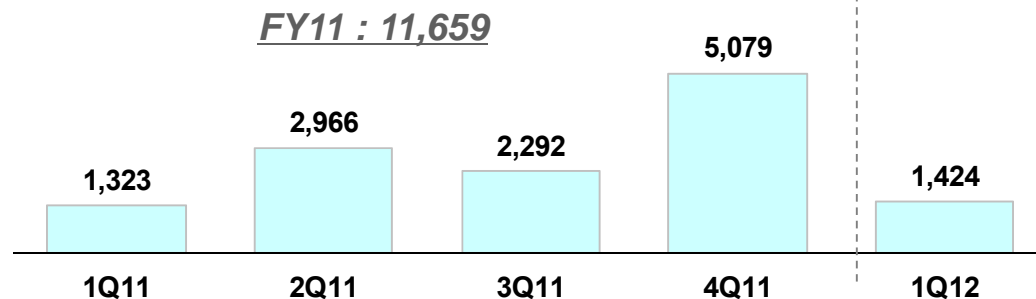
▶ クラウド関連設備投資等により増加

▶ 当社株主に帰属する資本比率
(株主資本比率)
- 12/6末: 45.2%
- 12/3末: 44.5%

Ⅱ-10. 連結キャッシュ・フローの状況

営業キャッシュ・フロー

単位：百万円



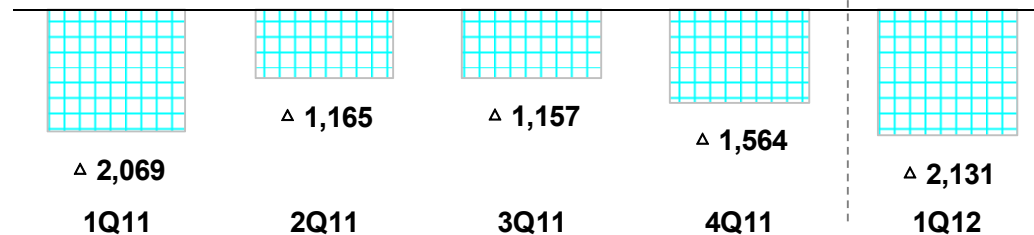
営業キャッシュ・フロー

- ▶ 営業利益の増加
- ▶ 未払法人税等の減少 2,045百万円
- ▶ 前払費用及びその他流動資産等の増加 1,943百万円

等

投資キャッシュ・フロー

FY11 : Δ5,954



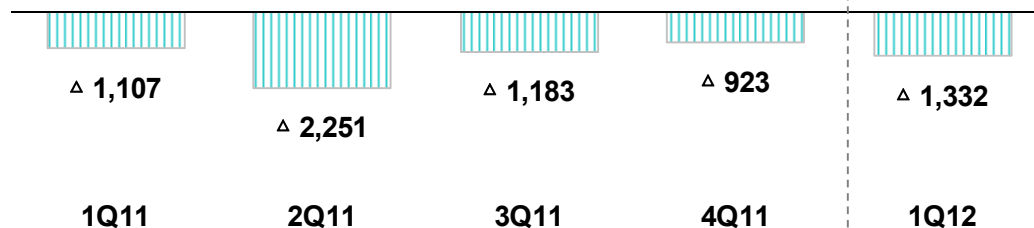
投資キャッシュ・フロー

- ▶ 有形固定資産の取得 1,658百万円

等

財務キャッシュ・フロー

FY11 : Δ5,464



財務キャッシュ・フロー

- ▶ キャピタル・リース債務の元本返済 877百万円
- ▶ 期末配当金支払い 355百万円

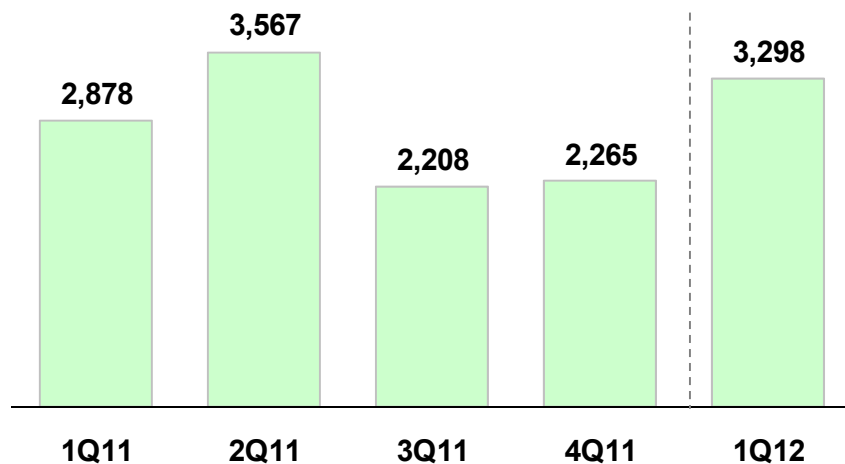
等

II-11. CAPEX・減価償却・Adjusted EBITDA の状況

CAPEX (設備投資額、キャピタルリースを含む)

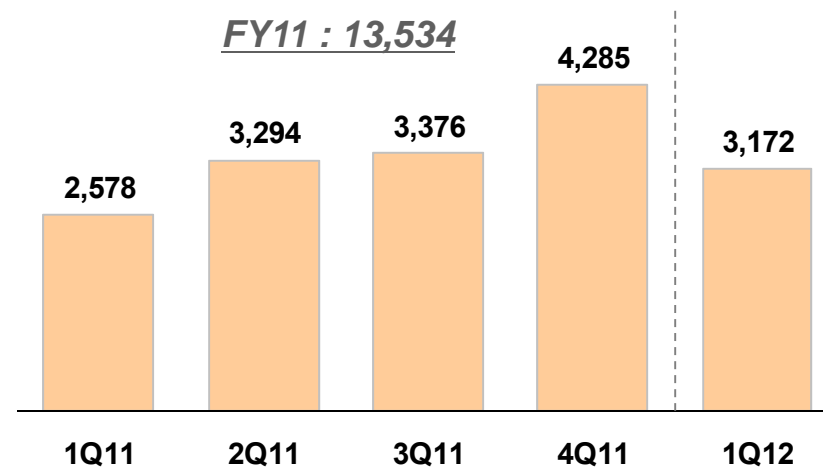
単位: 百万円

FY11 : 10,917



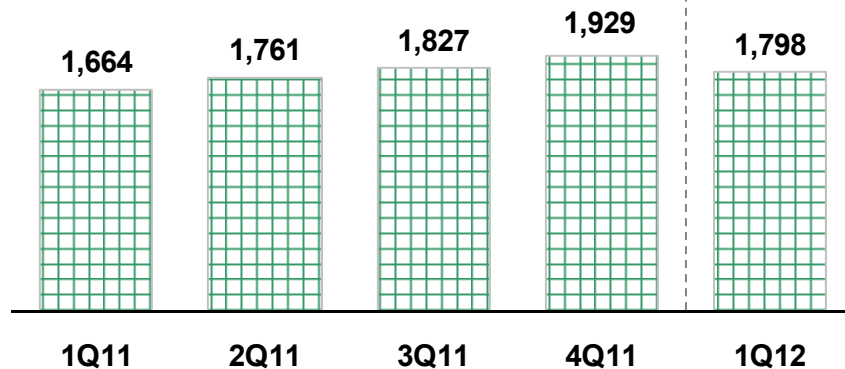
Adjusted EBITDA (償却前営業利益)

FY11 : 13,534



減価償却等

FY11 : 7,181

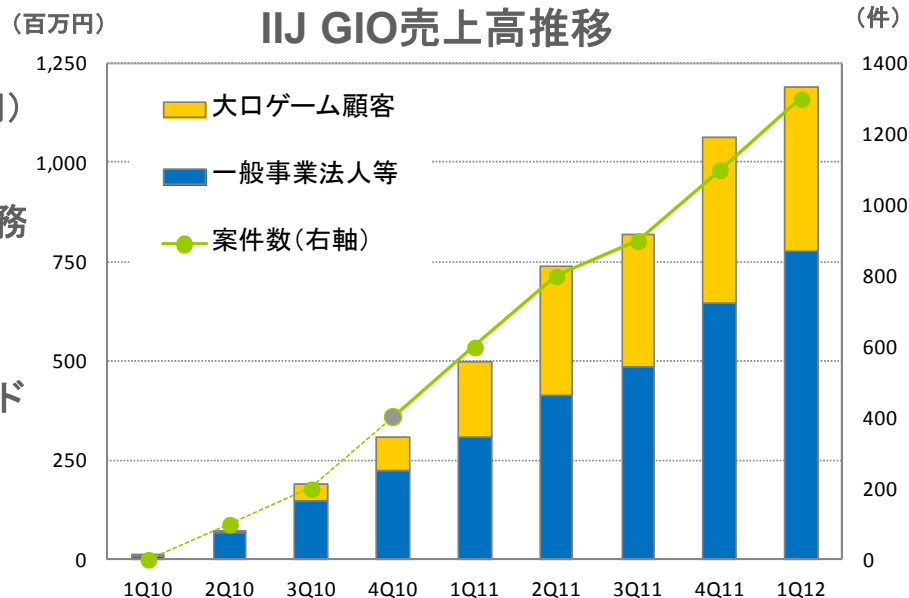


Ⅲ-1. クラウドサービス「IIJ GIO」の進展

IIJ GIO

■ 国内 IIJ GIO 事業進捗

- 1Q12売上高:12億円 (4Q11:10.5億円、1Q11:4.9億円)
 - 6月次売上高:4.2億円、1Q12末案件数:約1,300件
- 上記IaaS・PaaS売上高に加え、GIOベースの特定業務SaaS(FX、SmartPOS 等)も順次サービス化
 - 1Q12 SaaS売上高は1.5億円(上記の外数)
- SFA・人事システム等社内業務系システムへのクラウド適用少しずつ浸透、既存顧客の拡張案件複数獲得
- FY12計画: 売上高70億円超、通期黒字化
設備投資はFY11とほぼ同規模予定



■ サービスラインアップの継続拡充

- IIJ GIO 仮想化プラットフォームVWシリーズ
 - VMware ハイパーバイザ機能を提供、ハイブリッドクラウドをターゲット
 - 8月サービス開始、順次案件獲得・プロスペクト積み上げ
- IIJ GIOソーシャルアプリ支援ソリューション
 - Fusion-IO搭載モデル含むハイスpekク専用サーバ
- IIJ GIO コンポーネントサービスデータベースアドオン
 - オラクルDB月額課金でクラウド提供(国内初)

IIJ GIO導入事例



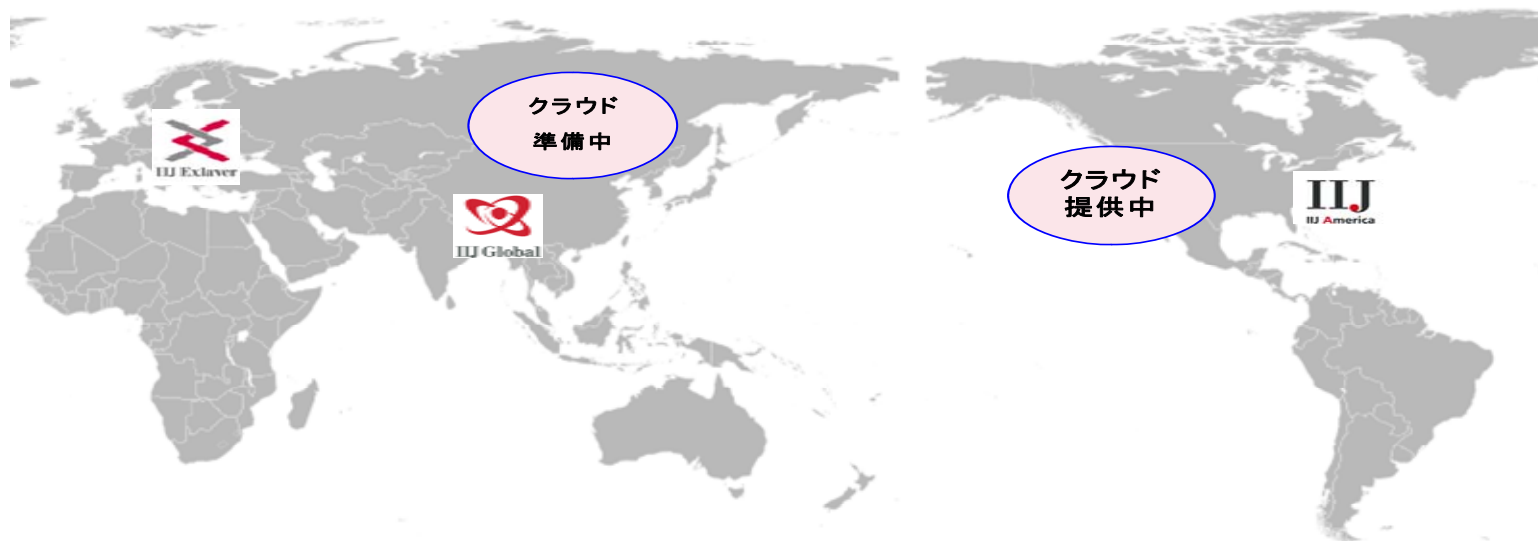
Ⅲ-2. 国際事業の進展

■ 1Q12国際事業概況

- 1Q12売上高:約10億円、想定を上回り進捗
- SNS向け米国大口サーバ構築運用案件の一部遂行
- SNS向け中心に米国クラウド順調に立ち上がり稼働中
 - 2012/3より提供開始
 - 需要増に応じサーバ設備継続拡充中
- 国際WAN案件 商談規模 約200件と増加中
- IJエクスレイヤ 2012年4月子会社化
 - 従業員57名、年間売上高8億円規模、2QよりPL連結
 - 海外サーバ構築案件等にて連携・協働

■ 今後のグローバル展開

- 海外大口サーバ構築案件の継続獲得
- 顧客需要に応じた更なる海外クラウド展開の検討・企画中
- アジア地域でのプレゼンス強化
 - タイ駐在員事務所の法人化(2012年8月)



Ⅲ-3. 2013年3月期連結業績見通し（変更無し：2012/5/15発表）

単位：億円

	FY2012 見通し (12/4~13/3)	FY2011 実績 (11/4~12/3)	前年度比	
営業収益 (売上高)	1,070.0	973.1	96.9	10.0%
営業利益	75.0	63.5	11.5	18.0%
税引前 当期純利益	69.0	59.8	9.2	15.5%
当社株主に帰属 する当期純利益	40.0	36.4	3.6	9.9%
一株当たり当社 株主に帰属する 当期純利益	19,735円	17,964円	+1,771円	9.9%
一株当たり 配当金	3,500円 (年間)	3,250円 (年間)	+250円	7.7%

※ 事業等のリスク

本資料には、1995年米国民事訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述(forward looking statements)」に該当する情報が記載されています。本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。現時点において想定しうる当社グループの主なリスク及び不確実性として、

- 1) 国内景気の低迷、経済情勢の変化等による企業のシステム投資及び支出意欲の低下、
- 2) サービスの中断等による当社グループのサービスへの信頼性の低下及び事業機会の逸失、
- 3) ネットワーク関連費用、外注費、人件費等、費用規模の想定を超える増加、
- 4) 競合他社との競争及び価格競争の進展、
- 5) 投資有価証券、営業権等ののれん資産の価値変動及び実現、

等がありますが、これら及びその他のリスク及び不確実性については、当社グループまたは当社が、1934年米国証券取引法(Securities Exchange Act of 1934)に基づき米国証券取引委員会に届出し開示している英文年次報告書(Form 20-F)及びその他の書類をご参照下さい。

※ お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ (経営企画部)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL: 03-5259-6500 FAX: 03-5259-6311 URL: <http://www.iij.ad.jp/ir> E-Mail: ir@iij.ad.jp



Internet Initiative Japan